

シグナルモニター付きTS信号分配器

# DDA-70TS

TS signal distributor with signal monitor

## 取扱説明書

このたびは、ビデオトロン製品をお買い上げいただきありがとうございました。  
安全に正しくお使いいただくため、ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みください。

## この製品を安全にご使用いただくために



### 警告

誤った取扱いをすると死亡または重傷、火災など重大な結果を招く恐れがあります。

#### 1) 電源プラグ、コードは

- ・ 定格で定められた電源以外は使用しないでください。
- ・ 差込みは確実に。ほこりの付着やゆるみは危険です。
- ・ 濡れた手でプラグの抜き差しを行わないでください。
- ・ 抜き差しは必ずプラグを持って行ってください。コードを持って引っ張らないでください。
- ・ 電源コードは巻かずに、伸ばして使用してください。
- ・ 電源コードの上に重い物を載せないでください。
- ・ 機械の取り外しや清掃時等は必ず機械の電源スイッチを OFF にし、電源プラグを抜いてから行ってください。

#### 2) 本体が熱くなったら、焦げ臭いにおいがしたら

- ・ すぐに電源スイッチを切ってください。電源スイッチのない機械の場合は、電源プラグを抜くなどして電源の供給を停止してください。機械の保護回路により電源が切れた場合、あるいはブザー等による警報がある場合にもすぐに電源スイッチを切るか、電源プラグを抜いてください。
- ・ 空調設備を確認してください。
- ・ しばらくの間機械に触れないでください。冷却ファンの停止などにより異常発熱している場合があります。
- ・ 機械の通風孔をふさぐような設置をしないでください。熱がこもり異常発熱の原因になります。
- ・ 消火器の設置をお勧めします。緊急の場合に取り扱えるようにしてください。

#### 3) 修理等は、弊社サービスにお任せください

- ・ 感電・故障・発火・異常発熱などの原因になりますので、弊社サービスマン以外は分解・修理などを行わないでください。
- ・ 故障の場合は、弊社 サポートセンターへご連絡ください。

#### 4) その他

- ・ 長期に渡ってご使用にならない時は電源スイッチを切り、安全のため電源プラグを抜いてください。
- ・ 質量のある機械は一人で持たず、複数人でしっかりと持ってください。転倒や機械の落下によりけがの原因になります。
- ・ 冷却ファンが回っている時はファンに触れないでください。ファン交換などは必ず電源を切り、停止していることを確かめてから行ってください。
- ・ 車載して使用する場合は、より確実に固定してください。転倒し、けがの原因になります。
- ・ ラックマウントおよびラックの固定はしっかりと行ってください。地震などの災害時に危険です。
- ・ 機械内部に異物が入らないようにしてください。感電・故障・発火の原因になります。



## 注意

誤った取扱いをすると機械や財産の損害など重大な結果を招く恐れがあります。

### 1) 機械の持ち運びに注意してください

- ・落下等による衝撃は機械の故障の原因になります。  
また、足元に落としたりしますとけがの原因になります。

### 2) 外部記憶メディア対応の製品では

- ・規格に合わないメディアの使用はドライブ・コネクタの故障の原因になります。  
マニュアルに記載されている規格の製品をご使用ください。
- ・強い磁場がかかる場所に置いたり近づけたりしないでください。内部データに影響を及ぼす場合があります。
- ・湿気やほこりの多い場所での使用は避けてください。故障の原因になります。
- ・大切なデータはバックアップを取ることをおすすめします。

### ● 定期的なお手入れをおすすめします

- ・ほこりや異物等の浸入により接触不良や部品の故障が発生します。
- ・お手入れの際は必ず電源を切り、電源プラグを抜いてから行ってください。  
また、電解コンデンサー、バッテリー他、長期使用劣化部品等は事故の原因につながります。  
安心してご使用していただくために定期的な(5年に一度)オーバーホール点検をおすすめします。  
期間、費用等につきましては弊社 サポートセンターまでお問い合わせください。

※上記現象以外でも故障かなと思われた場合やご不明な点がありましたら、弊社 サポートセンターまでご連絡ください。

## 保証規定

① 本製品の保証期間は、お買い上げ日より1年間とさせていただきます。

なお、保証期間内であっても次の項目に該当する場合は有償修理となります。

- (1) ご利用者様での、輸送、移動、落下時に生じた製品破損、損傷、不具合。
- (2) 適切でない取り扱いにより生じた製品破損、損傷、不具合。
- (3) 火災、天災、設備異常、供給電圧の異常、不適切な信号入力などにより生じた破損、損傷、不具合。
- (4) 当社製品以外の機器が起因して当社製品に生じた破損、損傷、不具合。
- (5) 当社以外で修理、調整、改造が行われている場合、またその結果生じた破損、損傷、不具合。

② 保証は日本国内においてのみ有効です。【This Warranty is valid only in Japan.】

③ 修理責任免責事項について

当社の製品におきまして、有償無償期間に関わらず出来る限りご依頼に沿える修理対応を旨としておりますが、以下の項目に該当する場合はやむをえず修理対応をお断りさせていただく場合がございます。

- (1) 生産終了より7年以上経過した製品、及び製造から10年以上経過し、機器の信頼性が著しく低下した製品。
- (2) 交換の必要な保守部品が製造中止により入手不可能となり在庫もない場合。
- (3) 修理費の総額が製品価格を上回る場合。
- (4) 落雷、火災、水害、冠水、天災などによる破損、損傷で、修理後の恒久的な信頼性を保証出来ない場合。

④ アプリケーションソフトについて

- (1) 製品に付属しているアプリケーションは、上記規定に準じます。
- (2) アプリケーション単体で販売している場合は、販売終了より3年経過した時点で、サポートを終了いたします。

※紙の保証書は廃止し、製品のシリアル番号で保証期間内外の判断をさせていただいております。

何卒、ご理解の程よろしく願いいたします。

..... 目次 .....

この製品を安全にご使用いただくために.....	I
保証規定.....	III
1. 概 説.....	1
2. 機能チェックと筐体への取り付け.....	2
1. 構 成.....	2
2. 筐体への取り付け.....	2
3. POWER ON までの手順.....	2
4. 基本動作チェック.....	2
3. 各部の名称と働き.....	3
【DIP SW の機能】.....	7
4. 基本操作.....	7
1.基本操作.....	7
2.メニューツリー.....	8
3.LOG 記録内容について.....	11
4.LOG のダウンロードの仕方.....	14
5.簡易フロントパネル.....	17
(1)SETTING.....	18
(2)CONTROL.....	19
(3)TRAP.....	24
(4)LOG.....	29
(5)日付時計設定.....	30
5. エラー検出について.....	33
1. ILLEGAL CODE.....	33
2. TS SYNC LOSS.....	33
3. SYNC BYTE ERROR.....	33
4. FRAME LENGTH ERROR.....	33
5. PAT ERROR.....	34
6. CONTINUITY COUNT ERROR.....	34
7. PMT ERROR.....	34
8. PID ERROR.....	34
9. TRANSPORT ERROR.....	34
10. NULL CONTINUITY.....	35
11. Reed-Solomon ERROR.....	35
6. プレゼンスの検出について.....	36
7. SNMP.....	37
8. 工場出荷設定（ディップスイッチ）.....	44
9. トラブルシューティング.....	45

10. 仕様	46
1. 機能	46
2. 定格	46
3. 性能	47
11. ブロック図	48

## 1. 概 説

DDA-70TS はシグナルモニター付きの MPEG-2 トランスポートストリーム(TS)信号(DVB-ASI 信号(EN50083-9))の分配器です。又、3G/HD/SD-SDI 信号にも対応しています(シグナルモニター非対応)。2 系統の独立した入力があり、それぞれ 4 分配することができます。前面表示機、又は WebServer の設定で 1 系統を 8 分配することもできます。

本器には入力信号監視機能があり、エラーの有無を前面表示機、または WebServer で確認することができます。又、監視するエラーに関して設定することができます。

LOG 機能もあり、WebServer 又は FTP を用いることにより LOG を確認することができます。

### 《特 長》

- TS 信号分配器(3G/HD/SD-SDI/DVB-ASI)
- 1 入力 8 分配、2 入力 4 分配を選択
- 入力信号監視機能
- WebServer で LOG 確認、エラー確認機能、プレゼンス表示の確認
- 前面表示機でエラー、プレゼンス表示、確認(詳細確認は WebServer で確認)
- 前面の LED で信号が入力されているか確認
- 設定は前面表示機、又は WebServer で行うことができる。
- エラーの監視項目
  - TS SYNC LOSS
  - SYNC BYTE ERROR
  - NULL CONTINUITY(NULL パケットの連続的な入力)
  - ILLEGAL CODE(10B8B 変換でルールに反するコードの入力)
  - FRAME LENGTH ERROR(フレーム長が 188/204byte でないパケットの検出)
  - TRANSPORT ERROR
  - CONTINUITY COUNT ERROR
  - PAT ERROR
  - PMT ERROR
  - PID ERROR
  - Reed -Solomon ERR
- プレゼンス項目
  - ユーザー定義のパケットの検出
  - フレーム長の検出(188/204byte)
  - PAT バージョン
  - VIDEO 検出
  - AUDIO 検出
  - CAPTION 検出

## 2. 機能チェックと筐体への取り付け

### 1. 構成

番号	品名	型名・規格	数量	記事
1	TS 信号分配器	DDA-70TS	1	
2	コネクタモジュール		1	
3	取扱説明書		1	本書

### 2. 筐体への取り付け

ご使用の際には、コネクタモジュール及びメインモジュールを筐体に取り付けてください。筐体は Vbus シリーズに対応します。WebServer を用いる場合は WebServer 対応の筐体をご使用ください。実装方法については「各 Vbus の取扱説明書」を参照してください。

### 3. POWER ON までの手順

- (1)メインモジュール及びコネクタモジュールを筐体へ正しくセットします。
- (2)筐体の電源プラグを AC100V のコンセントに接続します。
- (3)ASI IN に TS 信号を入力します。
- (4)ASI OUT からの出力を TS モニターなどに接続します。
- (5)筐体の電源スイッチを投入すると、筐体のパワーランプが点灯します。

### 4. 基本動作チェック

下記の操作で本機が正常に動作していることをチェックします。

正常に動作しない場合は「9. トラブルシューティング」を参照してください。

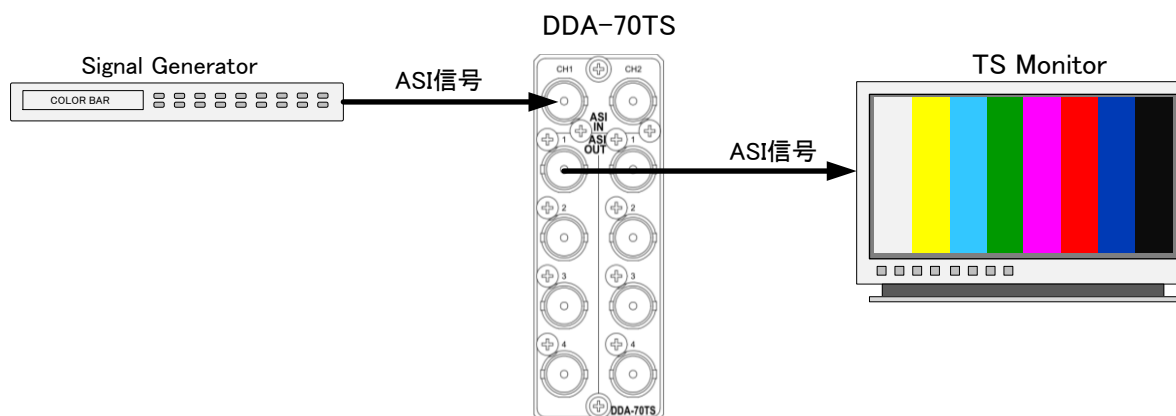


図 2.1 基本動作チェック

- (1)ASI 信号を ASI IN の CH1 に入力します。
- (2)TS OUT CH1-1 を ASI 信号対応の TS モニターへ接続します。
- (3)映像が正常に出力されていることを確認します。



### 3. 各部の名称と働き

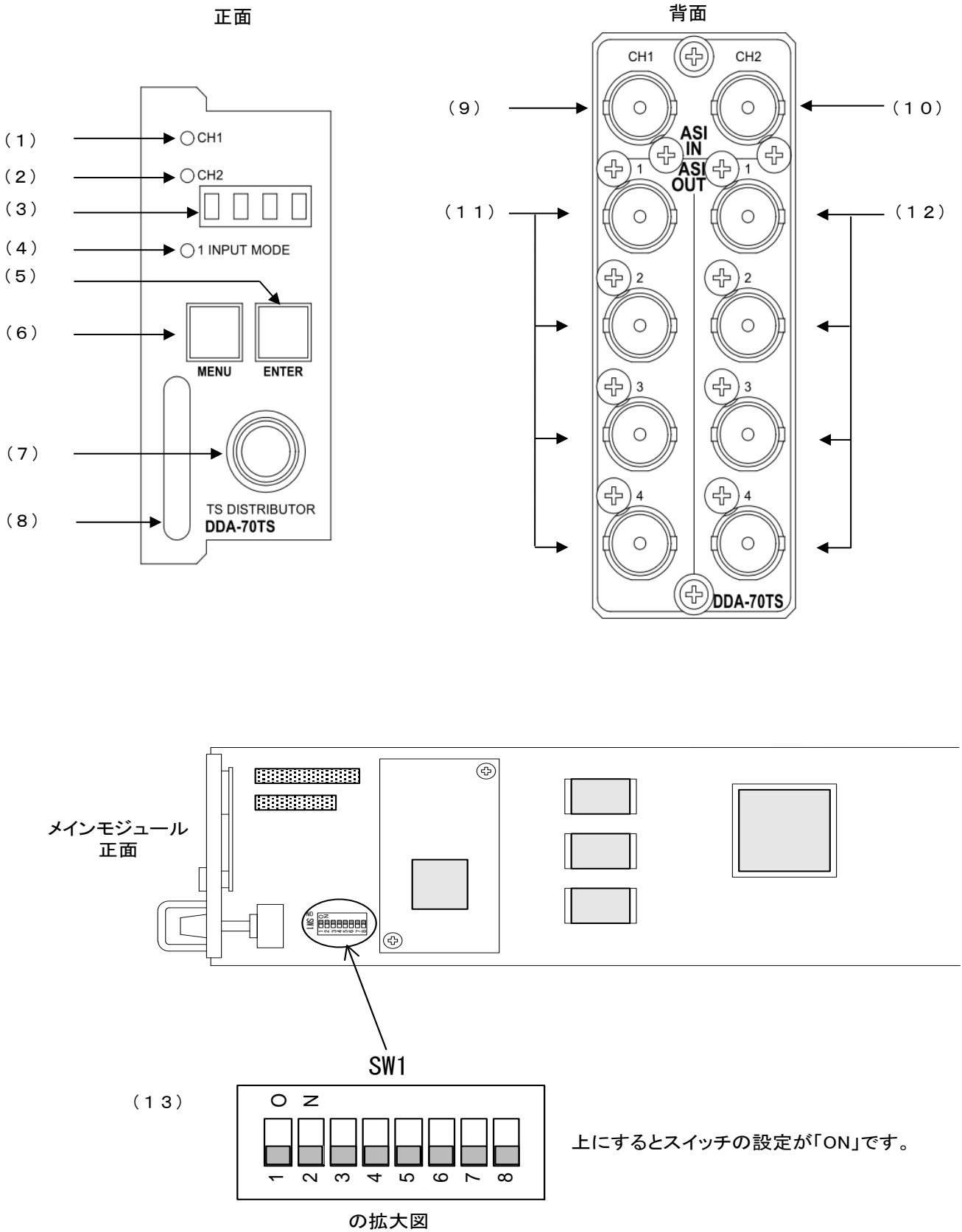


図 3.1 各部の名称と働き

#### (1) CH1 ランプ

ASI IN CH1 端子に TS 信号が入力されると緑点灯します。

ASI IN CH1 端子に SDI 信号が入力されると緑点滅します。

信号同期がとれず SYNC LOSS を起こした場合、橙色に点滅します。

(SYNC LOSS 検出を無効設定している場合は消灯します。)

ASI IN CH1 で同期がとれ、その他のエラーが発生している場合、緑と橙色が交互に点灯します。

#### (2) CH2 ランプ

ASI IN CH2 端子に TS 信号が入力されると緑点灯します。

ASI IN CH2 端子に SDI 信号が入力されると緑点滅します。

信号同期がとれず SYNC LOSS を起こした場合、橙色に点滅します。

(SYNC LOSS 検出を無効設定している場合は消灯します。)

ASI IN CH2 で同期がとれ、その他のエラーが発生している場合、緑と橙色が交互に点灯します。

### (3) 表示器

**MENU** ボタンが OFF の時は、機種名とステータスを表示します。

**MENU** ボタンが ON の時は、各種設定メニューを表示します。

**MENU** ボタンを OFF にし、機種名とステータスを表示する画面に戻った時、設定した内容がモジュールに一括反映されます。

注意: 各種メニュー設定の画面を表示している時に WebServer で設定しても即時反映はされず機種名とステータスを表示する画面に戻った時、設定した内容がモジュールに一括反映されます。

### 表示一覧

製品状態	先頭表示	オプション表示	説明
通常	DDA-70TS		製品名表示
	CH1:	ERR OCCURED	ERROR 検出中
		ERR HISTORY	ERROR 履歴有
		SYNC LOSS	SYNC LOSS 検出中
		SD SDI	SD SDI 信号入力
		HD SDI	HD SDI 信号入力
		3G SDI	3G SDI 信号入力
		SYNC 188	188byte TS 信号入力
		SYNC 204	204byte TS 信号入力
		SYNC ---	レンジ異常 TS 信号入力
	CH2:	ERR OCCURED	ERROR 検出中
		ERR HISTORY	ERROR 履歴有
		SYNC LOSS	SYNC LOSS 検出中
		SD SDI	SD SDI 信号入力
		HD SDI	HD SDI 信号入力
		3G SDI	3G SDI 信号入力
		SYNC 188	188byte TS 信号入力
		SYNC 204	204byte TS 信号入力
		SYNC ---	レンジ異常 TS 信号入力
通常時以外の動作	SW-8 ON		DIP SWITCH 8 ON 状態
	INITIALIZING		製品を初期化中
	INIT COMPLETE		製品起動完了
	LOG ERASING		ログ削除中

#### (4) INPUT MODE ランプ

1INPUT モード時(1 入力 8 分配)は緑点灯します。

2INPUT モード時(2 入力 4 分配)は消灯します。

#### (5) MENU ボタン

設定メニューに入っていない状態ではメニューに入ります。

設定メニュー時はキャンセルボタンとして動作します。

#### (6) ENTER ボタン

設定メニュー時に決定ボタンとして動作します。

CH1 ランプ、又は CH2 ランプがエラーをホールドし橙点灯している場合

設定メニューに入っていない状態で押すとホールド状態がリセットされます。

また、ホールドのリセット状態は 5 秒間続き、その間に発生したエラーは LED に反映されません。

(ただしログには反映されます。)

#### (7) 選択ツマミ

設定メニュー時は項目や設定を選択します。

#### (8) 取手

筐体への取り付け、取り外しなどを行う場合はこの部分を持ちます。

#### (9) ASI IN CH1 端子

TS 信号の入力端子です。

#### (10) ASI IN CH2 端子

TS 信号の入力端子です。

#### (11) ASI OUT1～4 端子

ASI IN CH1 に入力された信号が分配されます。

#### (12) ASI OUT5～8 端子

2 INPUT モード時 (2 入力 4 分配)は ASI IN CH2 に入力された信号が分配されます。)

1 INPUT モード時 (1 入力 8 分配)は ASI IN CH1 に入力された信号が分配されます。)

#### (13)DIP SW

動作モードを変更する際に使用する DIP SW(ディップスイッチ)です。

注意 1 ディップスイッチの設定は、電源を落とした状態で行ってください。

電源投入時に設定が反映されます。

注意 2 コネクターモジュールは電源を落とした状態で挿抜してください。

本体の電源投入時にコネクターモジュールの初期設定を行います。

注意 3 機能の割り当てられていない DIP SW は設定を OFF にしてください。

## 【DIP SW の機能】

DIP SW	スイッチ番号	機能	内容
SW1	1	-	-
	2	-	-
	3	-	-
	4	-	-
	5	内蔵メモリのフォーマット	内蔵メモリのフォーマット ※通常使用することはありません。
	6	-	-
	7	アラーム出力(接点出力)	OFF:ALARM OFF。検出条件に関係なくアラームを出力しない。 ON:ALARM ON。検出条件に従いアラームを出力。 検出条件は【ALARM 出力(接点出力)の判定】を参照のこと。
	8	出荷時設定	ONにした状態で起動すると、メニュー設定の初期化を行い出荷時設定に戻します。通常は OFF にしてください。又、LOG も初期化されます。

※工場出荷時、全てのディップスイッチの設定は OFF になります。

### 【ALARM 出力(接点出力)の判定】

1 入力 8 分配の場合、1CH の各エラー検出の和の値をアラームとして出力します。この時、CH2 は無視されません。又、ここでのエラーは有効無効の選択が反映された値とします。

2 入力 4 分配モードにおいては、1CH、2CH、両方のチャンネルで起こった各エラーの和の値を出力します。又、ここでのエラーは有効無効の選択が反映された値とします。

この接点出力のアラーム機能を用いない場合は、DIP SW スwitch番号 7 を OFF にしてください。

※TS\_SYNC\_LOSS の検出を無効にしていますと TS 信号が入力されなくなってもアラームを出力しません。

## 4. 基本操作

### 1. 基本操作

(1)電源投入直後はモジュール前面の表示器に機種名「DDA-70TS」と「ステータス」が繰り返し表示されています。

(2)(1)の状態では MENU を押すことで、表示器がメニューモードに入ります。

(3)ツマミを回し、設定する項目を選択します。

(4)ENTER を押すと設定項目が表示され設定することができます。

ただし、さらに深い階層がある場合は 1 つ下の階層に進むので、再度 (3)を行ってください。

(このとき MENU を押すと一つ上の階層に戻ります。)

(5)ツマミを回し設定を変更します。

(6)設定を保存する場合は ENTER を押します。

変更をキャンセルする場合は、MENU を押すことにより設定値は変更前の値に戻ります。

いずれの場合も、一つ上の階層へ移動します。

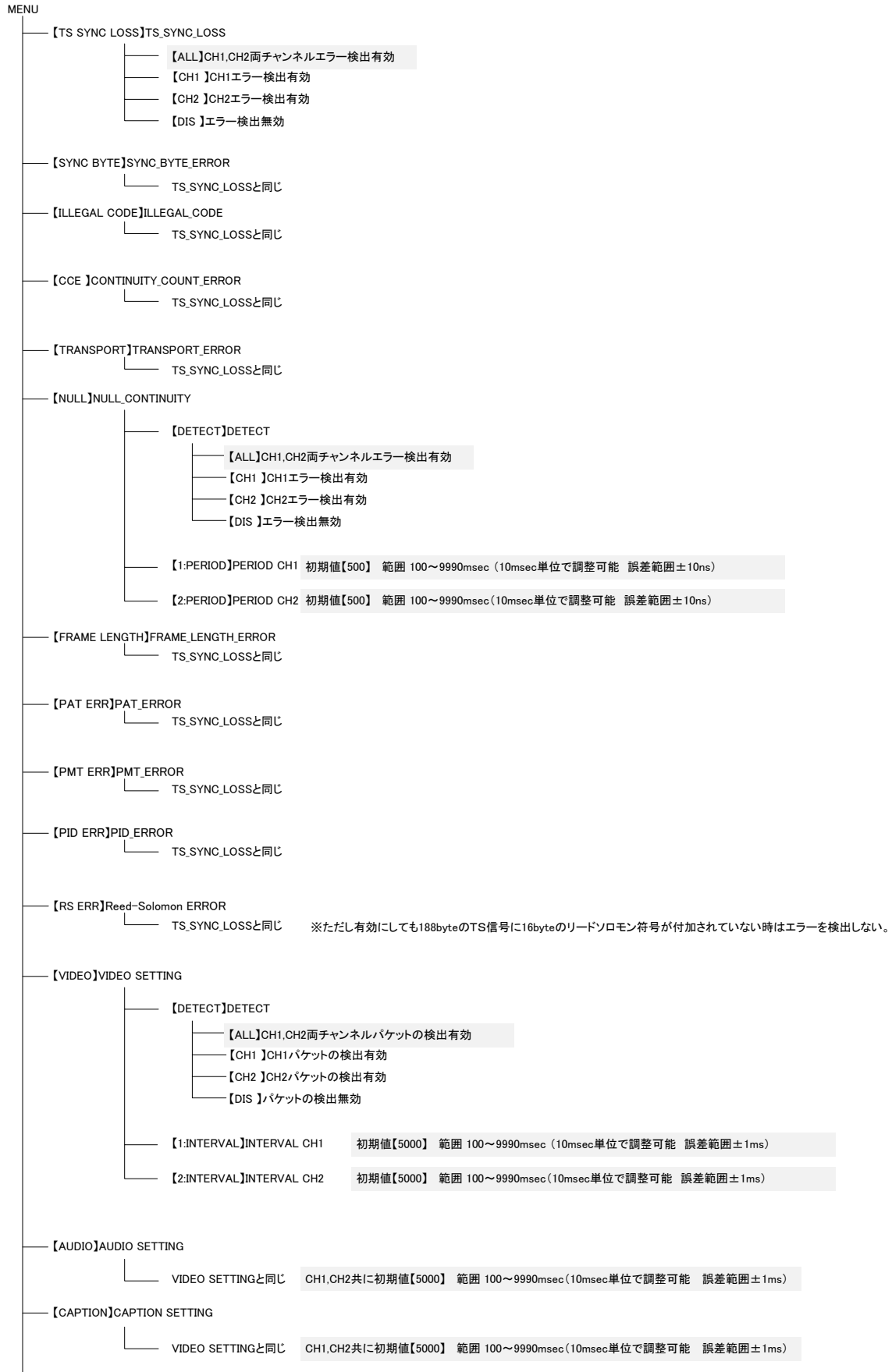
(7)さらに他項目の設定を行う場合は (3)～(6)の操作を繰り返し行います。

(8)終了する場合は MENU を複数回押して最上階層で MENU を押すと(1)の状態に戻ります。

この時、変更した設定が反映されます。メニューモードを抜けないと変更内容が反映されないのをご注意ください。

(9)メニューモードの状態では 5 分間未操作状態が続くと、設定をキャンセルし、ステータス表示へ戻ります。

## 2.メニューツリー

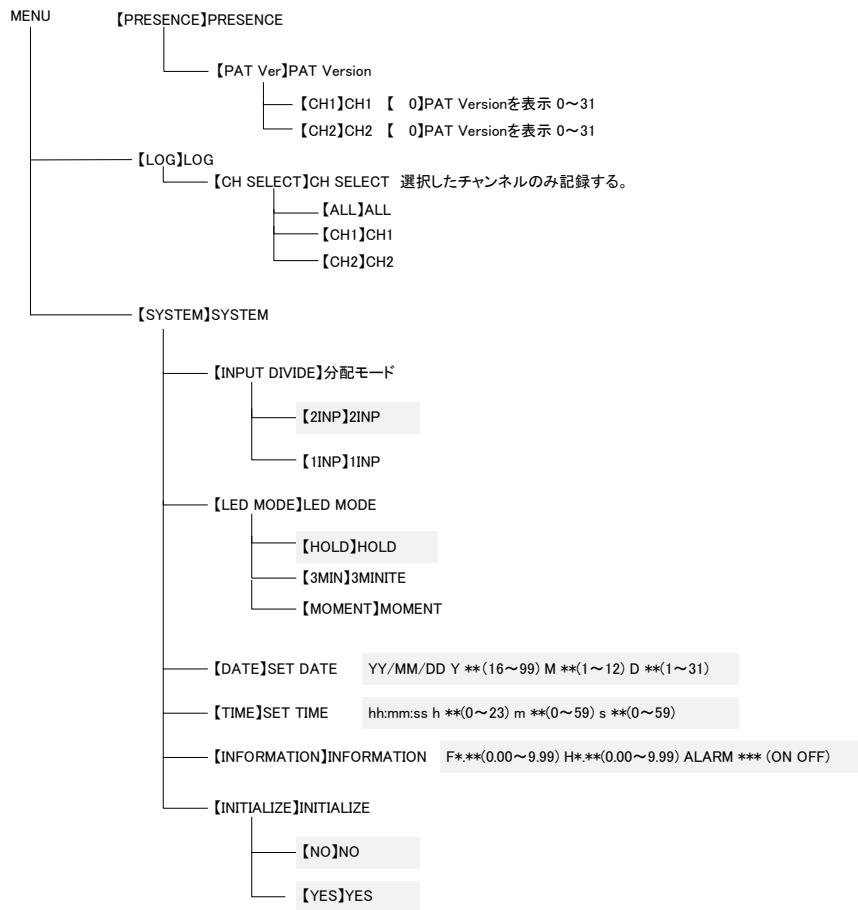


[USER]USER

- [1:1-PROFILE]PROFILE01 CH1対応
        - [ENABLE]ENABLE
          - [YES]有効
          - [NO]無効
        - [PID]PID 初期値【0】 範囲 0~8191PID
        - [INTERVAL]INTERVAL 初期値【5000】 範囲 100~9990msec(10msec単位で調整可能 誤差範囲±1ms)
      - [1:2-PROFILE]PROFILE02
        - PROFILE01と同じ
        - ⋮
      - [1:8-PROFILE]PROFILE08
        - PROFILE01と同じ
    - [2:1-PROFILE]PROFILE01 CH2対応
      - [ENABLE]ENABLE
        - [YES]有効
        - [NO]無効
      - [PID]PID 初期値【0】 範囲 0~8191PID
      - [INTERVAL]INTERVAL 初期値【5000】 範囲 100~9990msec(10msec単位で調整可能 誤差範囲±1ms)
    - [2:2-PROFILE]PROFILE2
      - PROFILE01と同じ
      - ⋮
    - [2:8-PROFILE]PROFILE08
      - PROFILE01と同じ

[PRESENCE]PRESENCE

- [FRAME]FRAME
  - [CH1]CH1のプレゼンスをモニタ
    - [188]同期がとれていて188byteのTS信号を受信した時に表示する。
    - [204-]同期がとれていて204byteのTS信号を受信し、RS符号がない時に表示する。
    - [204+]同期がとれていて204byteのTS信号を受信し、RS符号がある時に表示する。
    - [LOSS]同期がとれていない時に表示する。
  - [CH2]CH2のプレゼンスをモニタ
    - CH1と同じ
- [VIDEO]VIDEO
  - [CH1●]CH1で映像パケットを検出した場合「CH1●」、未検出の場合「CH1×」と表示する。
  - [CH2●]CH2で映像パケットを検出した場合「CH2●」、未検出の場合「CH2×」と表示する。
- [AUDIO]AUDIO VIDEOと同じ。音声パケットが検出された場合を表示する。
- [CAPTION]CAPTION VIDEOと同じ。字幕パケットが検出された場合を表示する。
- [USER]USER
  - [CH1]
    - [01 ●]CH1●の場合、プロファイルの何番が検出されているか表示。検出されていない場合は【01 ×】を表示する。
    - [02 ●]同上
    - ⋮
    - [08 ●]同上
  - [CH2]CH1と同じ。プロファイルは01から08まで表示





### 3.LOG 記録内容について

DDA-70TS は指定され検出された結果を LOG として、約 99000 件残すことができます。

ただし、検出有効と設定されたものが LOG として保存され、無効設定されたものは LOG として保存されません。

尚、上限を超える LOG を記録しなければならなくなった場合、順次古い LOG データより上書きされていきますので、予めご承知おきください。

以下に入力 CH1、CH2 の双方で、LOG に記録されるイベントを記載します。

#### 製品テキストログ内容一覧(1/3)

大 カテ ゴ リ	中 カテ ゴ リ	小カテゴリ	オプション	説明
SYS	LOG			製品動作に関するログ
				製品のログ記録に関するログ
		WRITE LOG	ON	ログ書き込み開始
		ERASE LOG	--	ログ削除実行
		RESET ERR	ALL	前面表示機から LED 表示をリセット(ERROR RESET)
			CH1	WebServer から CH1 の LED 表示をリセット(ERROR RESET)
			CH2	WebServer から CH2 の LED 表示をリセット(ERROR RESET)
MNU	SET			現在のメニューの設定
				設定された、設定されている
		DATE/TIME SET	DTE	日付を設定した
			TME	時計を設定した
			BTH	日付・時計を設定した
		INPUT SET	1IP	1 入力 8 分配到に設定
			2IP	2 入力 4 分配到に設定
		LED MODE SET	HLD	LED 表示モード=HOLD 設定
			3MN	LED 表示モード=3 分設定
			MMT	LED 表示モード=MOMENT 設定
		INITIALIZED	--	初期化実行
		LOG CH SELECTED	ALL	ログを残すチャンネル CH1,CH2
			CH1	ログを残すチャンネル CH1
			CH2	ログを残すチャンネル CH2
			DET	ユーザープリセット 08 検出開始

製品テキストログ内容一覧(2/3)

大カテゴリ	中カテゴリ	小カテゴリ	オプション	説明
CH1	ERR			入力 CH1 側で検出した内容
				エラーを検出
		TS SYNC LOSS	OK	TS 信号の SYNC LOSS 検出停止
			ERR	TS 信号の SYNC LOSS 検出開始
		SYNC BYTE	OK	SYNC BYTE エラー検出停止
			ERR	SYNC BYTE エラー検出開始
		ILLEGAL CODE	OK	ILLEGAL CODE 検出停止
			ERR	ILLEGAL CODE 検出開始
		CC ERROR ※PID 表示	OK	CC ERROR エラー検出停止
			ERR	CC ERROR エラー検出開始
		TRANSPORT ※PID 表示	OK	TRANSPORT エラー検出停止
			ERR	TRANSPORT エラー検出開始
		NULL CONTINUITY	OK	NULL CONTINUITY エラー検出停止
			ERR	NULL CONTINUITY エラー検出開始
		FRAME LENGTH	OK	フレーム長エラー検出停止
			ERR	フレーム長エラー検出開始
		PAT ERROR	OK	PAT ERROR エラー検出停止
			ERR	PAT ERROR エラー検出開始
		PMT ERROR ※PID 表示	OK	PMT ERROR エラー検出停止
			ERR	PMT ERROR エラー検出開始
		PID ERROR ※PID 表示	OK	PID ERROR エラー検出停止
			ERR	PID ERROR エラー検出開始
		REED SLMN ※PID 表示	OK	RS ERROR エラー検出停止
			ERR	RS ERROR エラー検出開始
	DET			入力信号の変化検出
		DETECT SIGNAL	LOS	入力信号未検出
		DETECT TS SYNC	DET	TS 信号の受信開始
		DETECT SDI:SD	DET	SD SDI 信号の受信開始
		DETECT SDI:HD	DET	HD SDI 信号の受信開始
		DETECT SDI:3G	DET	3G SDI 信号の受信開始
	PRS			プレゼンスの検出
		VIDEO ※PID 表示	LOS	VIDEO 検出停止
			DET	VIDEO 検出開始
		AUDIO ※PID 表示	LOS	AUDIO 検出停止
			DET	AUDIO 検出開始
		CAPTION ※PID 表示	LOS	CAPTION 検出停止
			DET	CAPTION 検出開始
		USER:P01 ※PID 表示	LOS	ユーザープリセット 01 検出停止
			DET	ユーザープリセット 01 検出開始
		USER:P02 ※PID 表示	LOS	ユーザープリセット 02 検出停止
			DET	ユーザープリセット 02 検出開始
		USER:P03 ※PID 表示	LOS	ユーザープリセット 03 検出停止
			DET	ユーザープリセット 03 検出開始
		USER:P04 ※PID 表示	LOS	ユーザープリセット 04 検出停止
			DET	ユーザープリセット 04 検出開始
		USER:P05 ※PID 表示	LOS	ユーザープリセット 05 検出停止
			DET	ユーザープリセット 05 検出開始
USER:P06 ※PID 表示		LOS	ユーザープリセット 06 検出停止	
	DET	ユーザープリセット 06 検出開始		
USER:P07 ※PID 表示	LOS	ユーザープリセット 07 検出停止		
	DET	ユーザープリセット 07 検出開始		
USER:P08 ※PID 表示	LOS	ユーザープリセット 08 検出停止		
	DET	ユーザープリセット 08 検出開始		

製品テキストログ内容一覧(3/3)

大カテゴリ	中カテゴリ	小カテゴリ	オプション	説明
CH2				入力 CH1 側で検出した内容
	ERR			エラーを検出
		TS SYNC LOSS	OK	TS 信号の SYNC LOSS 検出停止
			ERR	TS 信号の SYNC LOSS 検出開始
		SYNC BYTE	OK	SYNC BYTE エラー検出停止
			ERR	SYNC BYTE エラー検出開始
		ILLEGAL CODE	OK	ILLEGAL CODE 検出停止
			ERR	ILLEGAL CODE 検出開始
		CC ERROR ※PID 表示	OK	CC ERROR エラー検出停止
			ERR	CC ERROR エラー検出開始
		TRANSPORT ※PID 表示	OK	TRANSPORT エラー検出停止
			ERR	TRANSPORT エラー検出開始
		NULL CONTINUITY	OK	NULL CONTINUITY エラー検出停止
			ERR	NULL CONTINUITY エラー検出開始
		FRAME LENGTH	OK	フレーム長エラー検出停止
			ERR	フレーム長エラー検出開始
		PAT ERROR	OK	PAT ERROR エラー検出停止
			ERR	PAT ERROR エラー検出開始
		PMT ERROR ※PID 表示	OK	PMT ERROR エラー検出停止
			ERR	PMT ERROR エラー検出開始
		PID ERROR ※PID 表示	OK	PID ERROR エラー検出停止
			ERR	PID ERROR エラー検出開始
		REED SLMN ※PID 表示	OK	RS ERROR エラー検出停止
			ERR	RS ERROR エラー検出開始
	DET			入力信号の変化検出
		DETECT SIGNAL	LOS	入力信号未検出
		DETECT TS SYNC	DET	TS 信号の受信開始
		DETECT SDI:SD	DET	SD SDI 信号の受信開始
		DETECT SDI:HD	DET	HD SDI 信号の受信開始
		DETECT SDI:3G	DET	3G SDI 信号の受信開始
	PRS			プレゼンスの検出
		VIDEO ※PID 表示	LOS	VIDEO 検出停止
			DET	VIDEO 検出開始
		AUDIO ※PID 表示	LOS	AUDIO 検出停止
			DET	AUDIO 検出開始
		CAPTION ※PID 表示	LOS	CAPTION 検出停止
			DET	CAPTION 検出開始
		USER:P01 ※PID 表示	LOS	ユーザープリセット 01 検出停止
			DET	ユーザープリセット 01 検出開始
		USER:P02 ※PID 表示	LOS	ユーザープリセット 02 検出停止
			DET	ユーザープリセット 02 検出開始
		USER:P03 ※PID 表示	LOS	ユーザープリセット 03 検出停止
			DET	ユーザープリセット 03 検出開始
		USER:P04 ※PID 表示	LOS	ユーザープリセット 04 検出停止
			DET	ユーザープリセット 04 検出開始
		USER:P05 ※PID 表示	LOS	ユーザープリセット 05 検出停止
			DET	ユーザープリセット 05 検出開始
		USER:P06 ※PID 表示	LOS	ユーザープリセット 06 検出停止
			DET	ユーザープリセット 06 検出開始
		USER:P07 ※PID 表示	LOS	ユーザープリセット 07 検出停止
			DET	ユーザープリセット 07 検出開始
		USER:P08 ※PID 表示	LOS	ユーザープリセット 08 検出停止
			DET	ユーザープリセット 08 検出開始

上記が LOG として記載されます。

尚、メニュー設定内容に応じて、CH1 側のみ、あるいは CH2 側のみの記事だけに限定することができます。  
本設定の反映は、メニュー設定を変更後のログ記載内容に適用されます。

#### 4.LOG のダウンロードの仕方

LOG データのダウンロードには 2 つの方法があります。一つは Vbus 筐体の LAN をネットワークに接続し、WebServer の LOG カテゴリー(WebServer 章(4)LOG を参照してください。)の「ダウンロードボタン」を使用してダウンロードする方法、もう一つは同様に Vbus 筐体の LAN をネットワークに接続し FTP プロトコルを使用してダウンロードする方法です。・・・ ※1

ここで説明するのは、FTPプロトコルによるダウンロードを行う方法です。

【注意:】以下は、Windows 7 / 8 / 8.1 / 10、Windows Server 2008 / 2012のコマンドプロンプト上でFTPプロトコルを使用してダウンロードする方法となります。予めFireWall等の設定を無効化してください。

Mac OS X やLinux OS等、他のOS上の場合は手順が変わりますので予めご承知おきください。

1 Windows上において、コマンドプロンプトを開きます。

※ Mac OS X、Linuxの場合は端末、あるいはターミナルを開いてください。

以下はWindowsもMac OS XもLinuxも同じです。

2 “ftp xxx.xxx.xxx.xxx”と入力します。X はVbus筐体のIPアドレスです。

3 「User:」と聞いてきますので“ADMIN”と大文字で入力します。

4 次に「Password:」と聞いてきますので“VBUS”と大文字で入力します。

5 “cd x:”と入力し、ディレクトリを移動します。“x”はドライブ名“d”～“m”でスロット1がd、スロット10がmになります。

6 “Dir”と入力し、その結果、「dda70ts\*.txt」のファイルが結果の一覧に表示されることを確認してください。

注意 1 : dda70ts\*.txt、あるいはdda70ts\*.csvと表示されます。拡張子はメニューの設定により変化します。

注意 2 : dda70ts\*.txtの\*には数字0～98が入ります。

注意 3 : ファイルの日付が新しい程、新しいログが記録されたファイルとなります。\*に入る数字の番号には左右されません。

7 “get dda70ts\*.txt”と入力します。・・・ ※2

注意 : dda70ts\*.txtの\*には数字0～98が入ります。

8 “bye”と入力して終了します。

以上でダウンロード終了です。テキストエディター等で開いてご覧ください。

※1 Vbus 筐体の接続方法は Vbus-70 シリーズの取扱説明書をご参照ください。

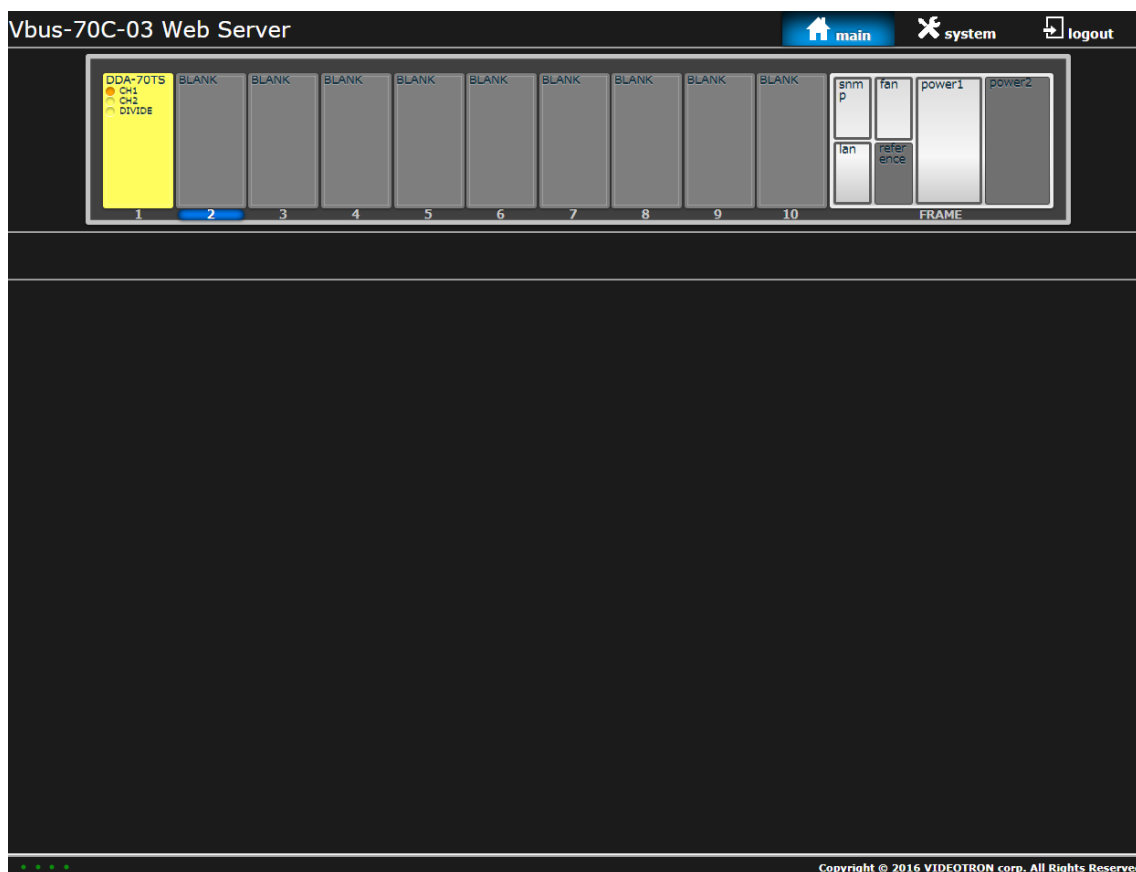
※2 FTPで取得したログファイルは、FTPを実行したフォルダー上に保存されます。

## 5.WebServer による設定

Vbus-70C オプションの WebServer をご購入いただきますと、インターネット上から DDA-70TS の操作や監視が行えます。(WebServer のバージョンは Ver1.03.00R00 以降をご使用ください。それ以前のバージョンですと一部の機能が使えない場合がございます。)

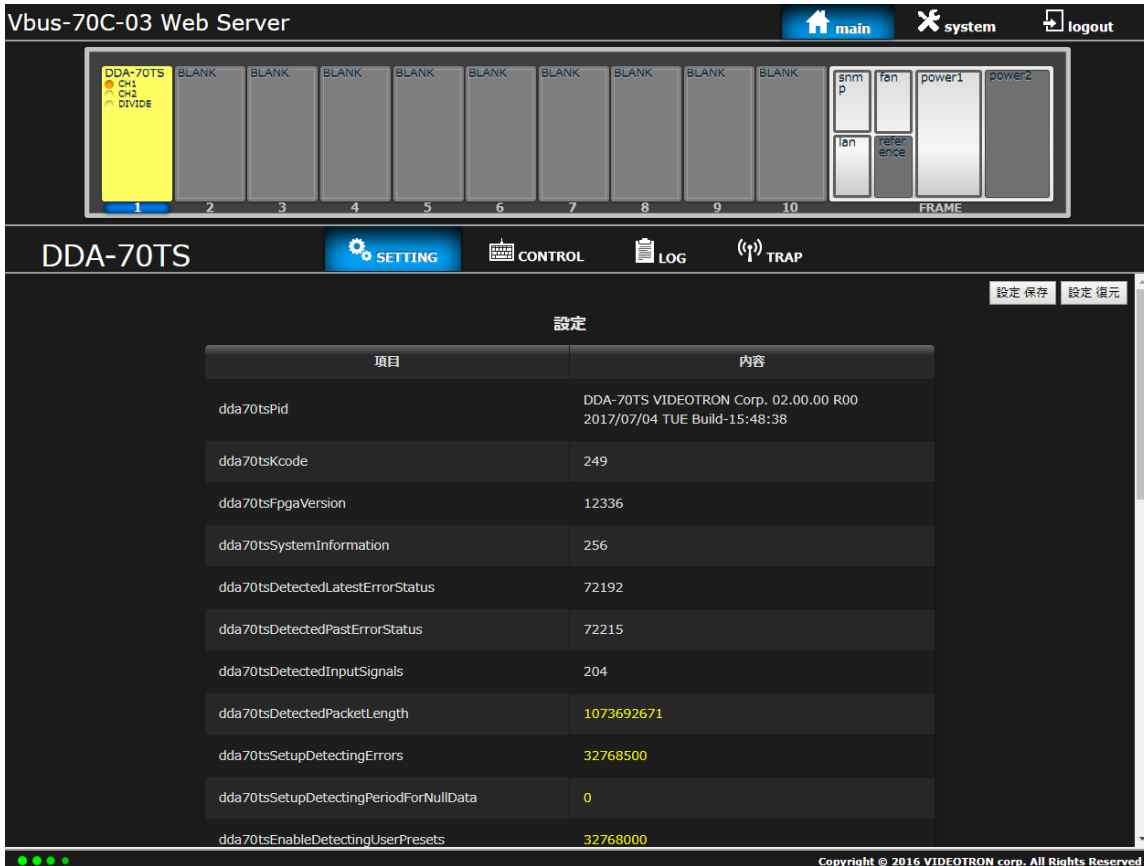
インターネット接続や、基本操作部分は Vbus-70C-03 WebServer 対応オプション取扱説明書を参照ください。

WebServer を開きますと下図のような画面になります。



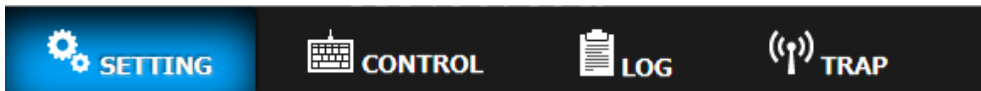
(注意: お客様の環境によっては表示される内容が異なります。)

上記画面が表示されましたら、有効な本製品、DDA-70TSのロットをクリックしてください。  
クリックしますと、本製品用のメニューが開きます。



上図は本製品をクリックした直後の画面です。

本製品のメニューとしては以下



4つのメニューによって構成されます。

・(1) SETTING

本製品よりSNMP通信によって得られた情報を文字情報によって表示します。設定、変更も可能ですが、専門的な知識が必要です。上級者向けとなっています。

・(2) CONTROL

本製品の情報をGUIによって表示します。また、本製品の設定をGUIによって設定できます。

(1)SETTINGと同様の設定、変更がGUIを使用して可能です。(1)SETTINGに比べ、直感的でかつ簡単に本機の設定、操作が行えますので、本製品をWebServerよりご利用の際はこちらを使用していただくことをお勧めします。

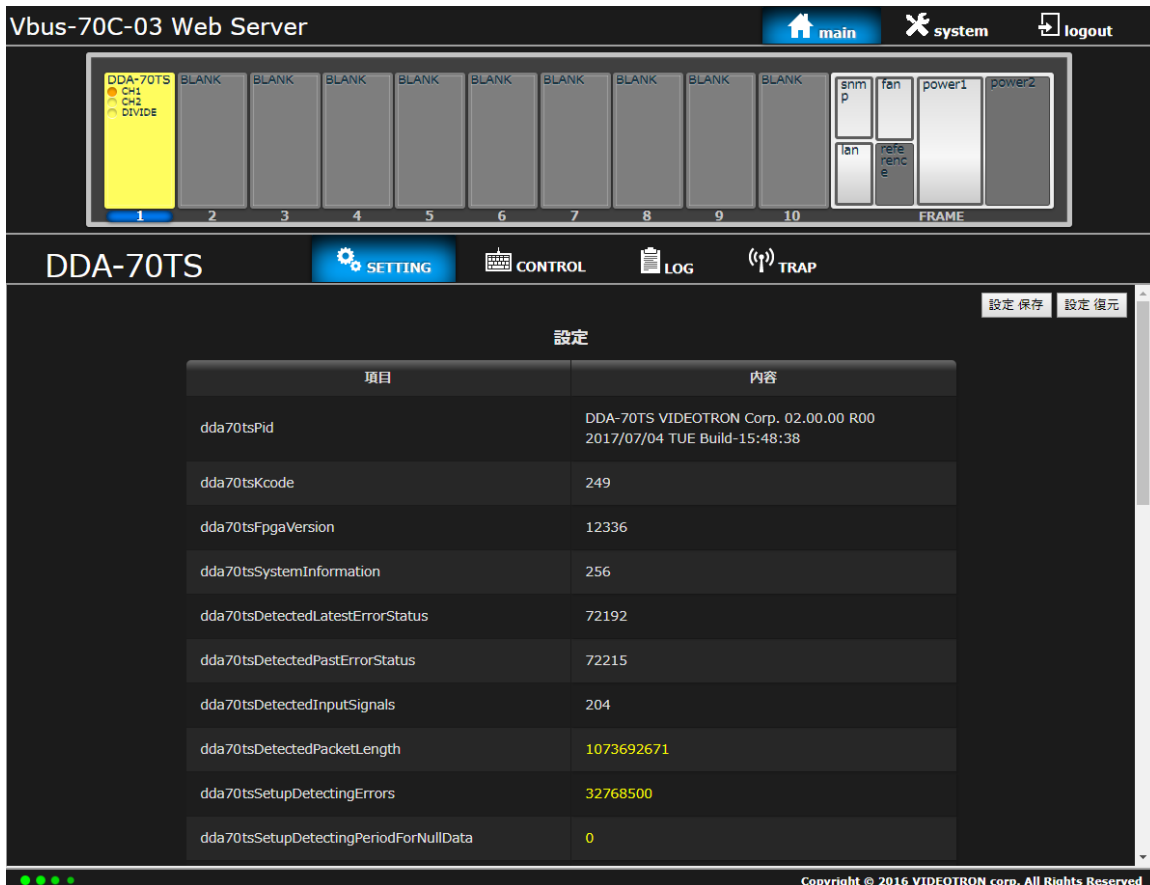
・(3) LOG

本製品のLOG記録機能を有効にしている場合、本機で検出した各入力CHにおいて検出された信号、信号成分、発生したエラーをLOGしており、発生順に履歴が表示されます。

・(4) TRAP

本製品が検出している内容について、変化を検出したときに、登録したメールアドレスに通知するよう設定することが可能です。

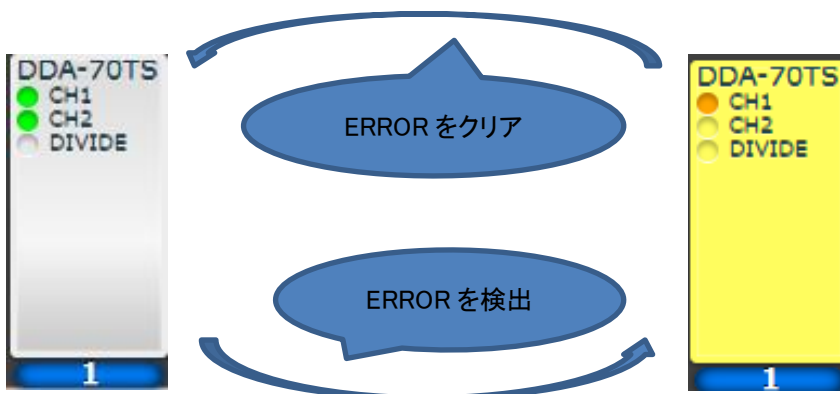
以下、4つのメニューについて説明していきます。



まず、本製品のメニューについて説明する前に、上記画像のスロットに表示される画像について説明します。

## 5.簡易フロントパネル

WebServer のスロットを示す部分に表示される簡易フロントパネルがあり、本製品の場合、下イメージのように



通常、各入力 CH に問題が検出されていない場合は、左のイメージのように表示され、問題が検出されると、右のイメージのように“黄色”で表示されます。

**注意:** 本機の設定によっては、現在問題が発生しておらず、直前に問題が発生していた場合もあります。又、モジュール本体が設定モードに入っている時は本体と同じく更新されません。

簡易フロントパネルの各要素の説明は下に示す通りです。

要素	説明
CH1	ASI IN CH1 端子に TS 信号が入力されると緑点灯します。 ASI IN CH1 端子に SDI 信号が入力されると緑点滅します。 信号同期がとれず SYNC LOSS を起こした場合、橙色に点滅します。 (SYNC LOSS を無効設定している場合は消灯します。) ASI IN CH1 で同期がとれ、その他のエラーが発生している場合、緑と橙色が交互に点灯します。
CH2	ASI IN CH2 端子に TS 信号が入力されると緑点灯します。 ASI IN CH2 端子に SDI 信号が入力されると緑点滅します。 信号同期がとれず SYNC LOSS を起こした場合、橙色に点滅します。 (SYNC LOSS を無効設定している場合は消灯します。) ASI IN CH2 で同期がとれ、その他のエラーが発生している場合、緑と橙色が交互に点灯します。
DIVIDE	1INPUT モード時(1 入力 8 分配)は緑点灯します。 2INPUT モード時(2 入力 4 分配)は消灯します。

以下、本製品の各メニューの説明を行います。

#### (1) SETTING

SNMP の OID で書き換え可能な項目の設定ができます。

##### ① SNMP によって取得される設定値の内容について

上図の SETTING 画面においては、SNMP 章でご紹介しました表に基づき、本製品 DDA-70TS より取得した各種値の一覧が表示されます。

まず、以下に本製品 DDA-70TS より SNMP で R/O(Read Only)として取得した値の内容を説明します。

・dda70tsPid : DDA-70TS のファームウェアのバージョン番号作成日時

dda70tsPid	DDA-70TS VIDEOTRON Corp. 02.00.00 R00 2017/07/04 TUE Build-15:48:38
------------	--

上記のように、製品名とファームウェアバージョン、作成日時が表示されます。

・dda70tsKcode : SNMP の個体識別番号

dda70tsKcode	249
--------------	-----

本製品 DDA-70TS 固有の SNMP の識別番号を表示します。

・dda70tshard: FPGA のバージョン情報

dda70tsFpgaVersion	12336
--------------------	-------

・dda70tsSystemInformation: システム情報



## (2) CONTROL

パネルによる、本製品の各入力 CH の状態を一目で確認できます。

また、以下 4 つのメニューがあります。

### 1) INPUT DETECT

検出された信号の種類とユーザープリセットを表示します。

### 2) SET ERROR DETECT

検出するエラーの設定をします。

### 3) SET INPUT DETECT

ユーザープリセットとプレゼンスについて設定します。

### 4) SETTING

SYSTEM、LOG VIEW、INITIALIZE、DIP SW の設定をします。

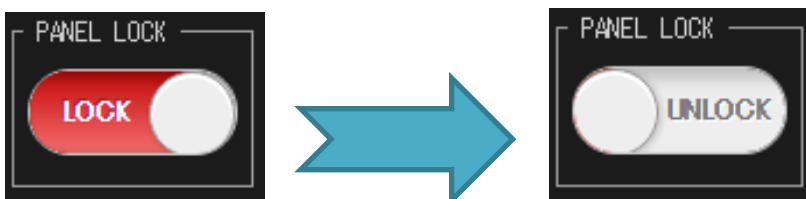
次に本メニュー内で表示される内容について説明します。

The screenshot displays the web server interface for a DDA-70TS device. At the top, it shows 'Vbus-70C-03 Web Server' with navigation links for 'main', 'system', and 'logout'. Below this is a status bar for 'DDA-70TS' with tabs for 'SETTING', 'CONTROL' (selected), 'LOG', and 'TRAP'. The main content area is divided into several sections: 'PANEL LOCK' with a 'LOCK' button, 'ALARM' with 'ALARM' buttons, 'ERROR RESET' with 'CH1 RESET' and 'CH2 RESET' buttons, and 'ERROR DETECTION' with two rows of error status indicators for CH1 and CH2. At the bottom, there are four large buttons for 'INPUT DETECT', 'SET ERROR DETECT', 'SET INPUT DETECT', and 'SETTING'. The footer contains 'Copyright © 2016 VIDEOTRON corp. All Rights Reserved'.

### ① ERROR 表示パネルおよび各操作ボタンについて

#### ● 操作ロック／解除

WebServer から本製品 DDA-70TS の設定を行う際、以下のように操作ロックを解除してください。



- ERROR 表示リセットスイッチパネルについて

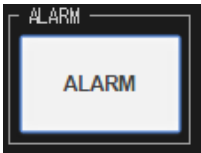
DDA-70TS 本体の ERROR の LED が点灯している場合、本パネルボタンをクリックすることで、DDA-70TS 本体のフロントパネルに搭載されているスイッチと同様の役割を果たし、ERROR LED を“CH 毎に”リセットすることができます。リセットすると約 1 秒間はリセット状態を維持しその間に発生したエラーは本体 LED、各 ERROR 表示パネルには反映されません。ただしログには記載されます。



- 各種 ERROR 状態表示パネルについて

以下に説明するパネルは全て本製品で検出した、現状の ERROR 発生状態について表示しています。以下、各パネルについて説明していきます。

- ALARM 信号出力状態パネルについて



ALARM 信号が物理的に出力されているかどうかを上記パネルで示します。パネルが赤くなっている時、信号が出力されています。

- CLOCK ALARM



モジュール内部の時計(RTC)用の電源がなくなり時計がリセットされたことを示します。長期間モジュールを筐体にささず電源を供給しないと起こります。電源を供給し時計を設定、2 分ほど筐体にセットしたままにしてください。再起動するとアラームの通知が止まります。(時計の設定は WebServer の system から行ってください。)

● 各 ERROR 表示パネルについて

本製品で検出している現在の ERROR の発生状態を以下のようにパネルで表示しています。  
赤く表示されているパネルが現状発生している ERROR を示しています。

ERROR DETECTION										
CH1										
TS SYNC LOSS	SYNC BYTE ERR	ILLEGAL CODE	NULL CONTI	FRMLEN ERR	CONTI CNT ERR	TRANSPORT ERR	PAT ERR	PMT ERR PID=7408	PID ERR PID=1417	REED SOLO MON
CH2										
TS SYNC LOSS	SYNC BYTE ERR	ILLEGAL CODE	NULL CONTI	FRMLEN ERR	CONTI CNT ERR	TRANSPORT ERR	PAT ERR	PMT ERR	PID ERR	REED SOLO MON

本製品で検出可能な ERROR 成分のうち、ERROR 検出を行うように設定されている時、

→ ERROR として検出している場合、“赤”で表示されます。

本、CONTROL 画面中の「SETTING」-「エラーLED 表示方法選択」が”Hold”あるいは、”3min”に設定されている時。

→ ERROR として現在検出されていないが、以前 ERROR として検出したことがある場合、“橙”で表示されます。

## ②INPUT DETECT

入力信号の判定をします。

The screenshot shows the 'Vbus-70C-03 Web Server' interface. At the top, there are navigation links for 'main', 'system', and 'logout'. Below this is a status bar for 'DDA-70TS' with indicators for 'CH1', 'CH2', and 'DIVIDE'. The main area is divided into several sections: 'PANEL LOCK' with an 'UNLOCK' button, 'ALARM' buttons, and 'ERROR RESET' buttons. The 'ERROR DETECTION' section shows a grid of error indicators for 'CH1' and 'CH2', with 'PID ERR PID-312' highlighted in red. The 'INPUT DETECT' section is expanded, showing 'INPUT SIGNAL DETECTION' for 'CH1' and 'CH2'. Each channel has a grid of signal type indicators: 'TS SIGNAL 204', 'VIDEO', 'AUDIO', 'CAPTION', and 'USER PRESET'. The 'TS SIGNAL 204' indicator is highlighted in green. Below this is a 'SET ERROR DETECT' button. At the bottom right, there is a copyright notice: 'Copyright © 2016 VIDEOTRON corp. All Rights Reserved'.

入力している信号を判定します。

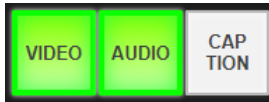
各チャンネル毎に表示され、左から入力信号種別、ユーザープリセット、フレーム長を表します。

・入力信号種別



TS SIGNAL、SD SDI、HD SDI、3G SDI、SYNC LOSS が表示されます。

・プレゼンスの判定

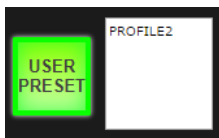


VIDEO,AUDIO,CAPTION の TS パケットが入力して来た場合該当するランプが緑色になります。

また、本器では stream type を用いて判定しており下記のように判定されます。

項番	判定	ストリームタイプ	意味
1	映像	0x01	ISO/IEC 11172-2映像
2	映像	0x02	ITU-T勧告H.262 ISO/IEC 13818-2映像またはISO/IEC 11172-2制約パラメータ映像ストリーム
3	映像	0x10	ISO/IEC14496-2 映像
4	映像	0x1B	ITU-T勧告H.264 ISO/IEC 14496-10映像で規定されるAVC映像ストリーム
5	映像	0x1E	ISO/IEC23002-3で規定される補助映像ストリーム
6	映像	0x1F	ITU-T勧告H.264 ISO/IEC14496-10映像の付録Gで規定される一つ以上のプロファイルに準拠するAVC映像ストリームのSVC映像サブビットストリーム
7	映像	0x20	ITU-T勧告H.264 ISO/IEC14496-10映像の付録Hで規定される一つ以上のプロファイルに準拠するAVC映像ストリームのMVC映像サブビットストリーム
8	映像	0x21	ITU-T勧告T.800 ISO/IEC15444-1で規定される一つ以上のプロファイルに準拠する映像ストリーム
9	映像	0x22	サービス互換二眼式3Dサービスの追加視点映像のITU-T勧告H.262 ISO/IEC 13818-2
10	映像	0x23	ITU-T勧告H.264 ISO/IEC14496-10 Annex Aで規定される一つ以上のプロファイルに準拠するサービス互換二眼式3Dサービス追加視点映像ITU-T勧告H.264 ISO/IEC14496-10映像ストリーム
11	映像	0x24	HEVC映像ストリームまたはHEVC時間方向映像サブビットストリーム
12	映像	0x25	ITU-T勧告H.265 ISO/IEC23008-2 Annex Aで規定される一つ以上のプロファイルに準拠するHEVC映像ストリームのHEVC時方向映像サブセット
13	音声	0x03	ISO/IEC 11172-3 音声
14	音声	0x04	ISO/IEC 13818-3 音声
15	音声	0x0F	ISO/IEC13818-7 音声(ADTSトランスポート構造)
16	音声	0x11	ISO/IEC 14496-3 音声(ISO/IEC 14496-3/AMD 1で規定されるLATMトランスポート構造)
17	音声	0x1C	ISO/IEC 14496 音声(DST、ALS、SLSなど何ら追加のトランスポート構造を使用しないもの)
18	字幕	0x06	プライベートデータを収めたITU-T勧告H.222.0 ISO/IEC 13818-1PESパケット

・ユーザープリセット



検出されたユーザープリセット番号表示

・PAT バージョン



ストリームの PAT バージョンを表示します。

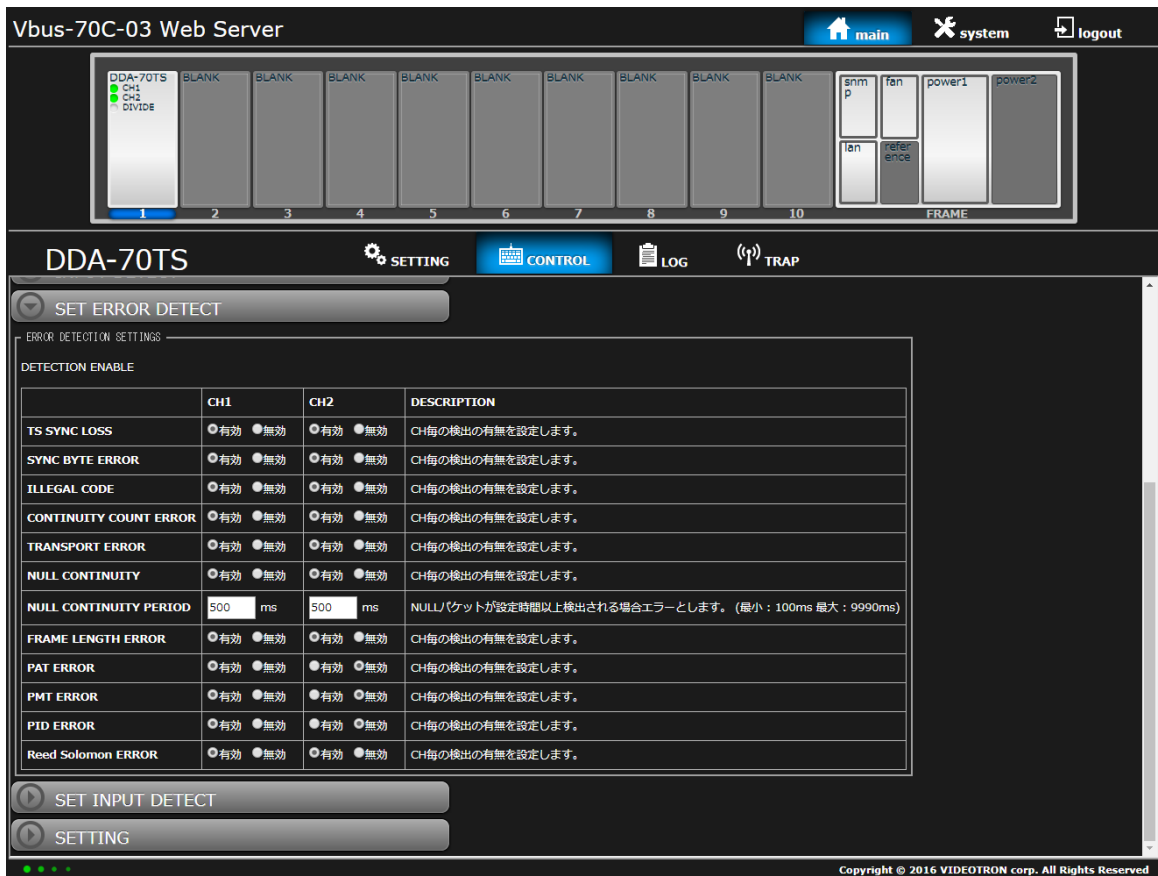
### (3) TRAP

トラップの出力の設定が行えます。

項目	内容
1	トラップ項目 発行される TRAP 項目と内容の一覧を表示します
2	TRAP 一括設定 TRAP 設定の全ての項目を一括してチェックします
3	MAIL 一括設定 MAIL 設定の全ての項目を一括してチェックします
4	TRAP 設定 TRAP として通知したい項目にチェックを付けます
5	MAIL 設定 TRAP が発行されたときにメール通知したい項目にチェックを付けます

### ③ SET ERROR DETECT

本製品の ERROR 検出の設定を行うことができます。



エラー検出の設定を行います。

以下にそれぞれ設定内容を示します。

種別	設定パネル				
TS SYNC LOSS	<table border="1"> <thead> <tr> <th>CH1</th> <th>CH2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td><input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効</td> <td><input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効</td> </tr> </tbody> </table> <p>チャンネル毎にエラー検出の有効無効を設定する。</p>	CH1	CH2	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効
CH1	CH2				
<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効				
SYNC BYTE ERROR	TS SYNC LOSSと同様に設定します。				
ILLEGAL CODE	TS SYNC LOSSと同様に設定します。				
CONTINUITY COUNT ERROR	TS SYNC LOSSと同様に設定します。				
TRANAPORT ERROR	TS SYNC LOSSと同様に設定します。				
NULL CONTINUITY	TS SYNC LOSSと同様に設定します。				
NULL CONTINUITY PERIOD	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>500 ms</td> </tr> </tbody> </table> <p>各チャンネルで設定します。設定より長く NULL パケットが連続で来た場合エラーとみなします。</p>	500 ms			
500 ms					
FRAME LENGTH ERROR	TS SYNC LOSSと同様に設定します。				
PAT ERROR	TS SYNC LOSSと同様に設定します。				
PMT ERROR	TS SYNC LOSSと同様に設定します。				
PID ERROR	TS SYNC LOSSと同様に設定します。				
Reed Solomon ERROR	TS SYNC LOSSと同様に設定します。				

#### ④ SET INPUT DETECT

The screenshot shows the 'SET INPUT DETECT' configuration page for the DDA-70TS. The page is divided into two main sections: 'INPUT SIGNAL DETECTION SETTINGS' and 'USER PRESET SETTINGS'. Both sections contain tables with columns for 'CH1', 'CH2', and 'DESCRIPTION'. The 'INPUT SIGNAL DETECTION SETTINGS' table includes rows for VIDEO, AUDIO, and CAPTION settings, each with radio buttons for '有効' (Effective) and '無効' (Ineffective), and input fields for intervals. The 'USER PRESET SETTINGS' table includes rows for USER PRESET DETECTION 1, USER PRESET PID 1, and USER PRESET PERIOD 1, also with radio buttons and input fields.

プレゼンスの設定をします。

##### ・VIDEO SETTING

有効  無効

VIDEO パケットをプレゼンスとして有効無効を選択します。

##### ・VIDEO INTERVAL

500 ms

VIDEO パケットの入力周期を設定します。この周期以内に VIDEO パケットが入力してきた場合、そのパケットを検出していると判断します。又、その周期以内に来なかった場合 LOSS したと判定します。

※AUDIO、CAPTION についても VIDEO と同様です。

ユーザープリセットの設定をします。

各チャンネル毎に8つずつユーザープリセットを設定することができます。

##### ・USER PRESET DETECTION

有効  無効

各ユーザープリセットの有効無効を選択します。

##### ・USER PRESET PID

0

検出対象のパケットの PID を設定します。



・USER PRESET PERIOD

500 ms

設定したパケットの入力周期を設定します。この周期以内に設定したパケットが入力してきた場合、そのパケットを検出していると判断します。又、その周期以内に来なかった場合 LOSS したと判定します。

⑤ SETTING

SETTING			
SYSTEM	INPUT&DIVIDE SELECT	<input checked="" type="radio"/> 1入力8分配 <input type="radio"/> 2入力4分配	入出力分配モードを設定します。
	ERROR LED SETTING	<input type="radio"/> HOLD <input type="radio"/> 3minute <input type="radio"/> MOMENT	前面パネルのLED点灯モードを設定します。
LOG VIEW	VIEW ITEM SELECT	<input checked="" type="radio"/> ALL <input type="radio"/> CH1 <input type="radio"/> CH2	ログ情報として保存する内容を選択します。
INITIALIZE	SETUP DATA	<input data-bbox="422 1115 502 1142" type="button" value="初期化..."/>	製品の設定内容を工場出荷時設定に戻します。
	LOG DATA	<input data-bbox="422 1153 486 1180" type="button" value="消去..."/>	保存されているログ情報の消去を行います。
DIP SW	DIP SW1	ON <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> OFF <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 1 2 3 4 5 6 7 8 ブラウザ上からの設定変更はできません。	No7 : Alarm output 0:非出力 1:出力 No8 : Initialize Configuration 0:通常動作 1:初期化動作 ※設定はモジュール上のディップスイッチで設定します。

本機の設定を行います。

・SYSTEM

INPUT&DIVIDE SELECT  1入力8分配  2入力4分配

分配モードを選択します。

ERROR LED SETTING  MOMENT  3minute  HOLD

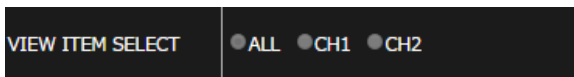
ERROR LED の設定をします。

MOMENT: エラーが発生した時のみ点灯します。

3minute: エラーが発生してから3分間点灯します。

HOLD: ホールドリセットを実行するまで点灯します。

・LOG VIEW



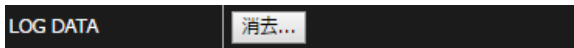
保存するログを選択します。

選択されなかったチャンネルのログは保存されませんのでご注意ください。

・INITIALIZE

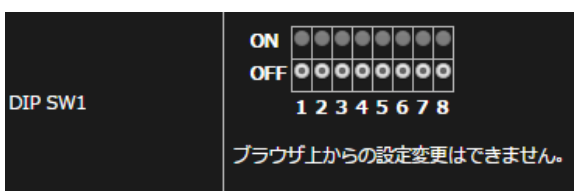


本機の各種設定内容を工場出荷時設定に戻します。



保存されているログ情報の消去を行います。

・DIP SW



モジュール上のディップスイッチの設定を見ることができます。

WebServer 上ではディップスイッチの設定を変更することはできません。

#### (4)LOG

DATE	TIME	CATEGORY	KIND	DETAILS	PARAM
17.07.06	10:56:35	CH2	PID=1415	CAPTION	OK
17.07.06	10:56:35	CH2	PID=1415	PID ERROR	OK
17.07.06	10:56:35	CH2	PID=7408	PMT TIMEOUT	ERR
17.07.06	10:56:35	CH1	PID=7408	PMT TIMEOUT	ERR
17.07.06	10:56:35	CH2	PID=0304	CAPTION	ERR
17.07.06	10:56:35	CH2	PID=8136	PMT TIMEOUT	OK
17.07.06	10:56:35	CH2	PID=1417	PID ERROR	ERR
17.07.06	10:56:35	CH2	PID=0370	PID ERROR	OK
17.07.06	10:56:35	CH2	PID=0304	PID ERROR	ERR
17.07.06	10:56:35	CH1	PID=8136	PMT TIMEOUT	OK
17.07.06	10:56:35	CH1	PID=1417	PID ERROR	ERR

ログの表示画面は上図のようになります。

ログは以下のように表示されます。

Page番号が小さい程、最新のログが記録されたファイルの内容を表示します。

表示されているログより新しいデータがある場合「最新」のボタンが黄色く点滅します。その時「最新」のボタンを押していただくと最も新しいログを表示します。

ダウンロードボタンを押すことで、現在表示中のログファイルをダウンロードすることができます。

注意！ ログ表示画面の更新を行っている期間中は、入力信号上に発生するエラー、あるいはユーザー定義のパケット検出等を行いません。この為、この期間中にログは記載されないことをあらかじめご承知おきください。

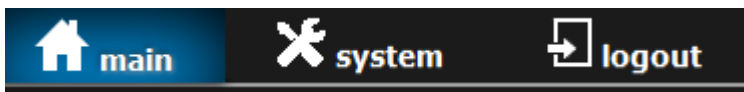
※詳細は3.LOG記録内容についてをご覧ください。

## (5) 日付時計設定

本製品の日付および時計の設定を行うことができます。

本製品 DDA-70TS の日付、および時計設定は、Vbus-70C オプションの WebServer より行うことができます。

画面上部にあります、下図のようなアイコンの「system」をクリックしてください。



画面が切り替わり、左側に下図のようなサイドメニューが表示されますので、その中から「時計設定」を選択してください。



「時計設定」を選択しますと下のような画面に切り替わります。



Vbus-70C-03 Web Server

SYSTEM MENU

### 時計設定

項目	内容
現在日付	2015-09-15
現在時刻	17:09:35
PC日付	2015/09/15
PC時刻	17:09:42

入力日時で設定

PC日時で設定

項目	内容
NTPサーバー有効	無効
NTPサーバーアドレス	ntp.nict.jp
タイムゾーン	UTC+9:00
時刻同期を行う時刻または間隔	03:00:00
最後に時刻校正した日付	2000-00-00
最後に時刻校正した時刻	00:00:00

時刻同期スロット

SLOT1	ON
SLOT2	OFF
SLOT3	ON
SLOT4	OFF
SLOT5	ON
SLOT6	OFF
SLOT7	OFF
SLOT8	OFF

Ver : 01.01.01 R00

本画面より日付、および時計設定を変更するのに3つの方法があります。

- (1)手動入力
- (2)PC の時計設定と同期
- (3)NTP による同期

上記の設定方法の説明を行う前に Vbus 内に設置された製品に対して、今回行う日付、時計設定を反映させる・させないを個別に選択する方法を以下に記載します。

画面上に表示されている下図の画面において、Vbus の全スロットへの反映を行うか行わないかを「ON」/「OFF」で表示されておりますので、今回設定を行う日付、時計設定について反映“させたい”スロットだけ、「ON」に設定します。



上記により Vbus に設置された他の製品には日付、時間の設定は反映されません。

次に、日付、時計設定を行う手段 3 つについて説明します。

- (1)手動入力による日付設定の場合

項目	内容
現在日付	2015-09-15
現在時刻	17:09:35

設定したい日付、時計の内容を記載して、「入力日時で設定」をクリックしますと設定されます。

- (2)PC の時刻に合わせた日付設定を行う場合

PC日付	2015/09/15
PC時刻	17:08:42

PC より読み取った現在の日付と時間が表示されていますので、その値で設定したい場合「PC 日時で設定」をクリックしてください。

- (3)NTP による同期によって日付設定を行う場合

項目	内容
NTPサーバー有効	無効
NTPサーバーアドレス	ntp.nict.jp
タイムゾーン	UTC+9:00
時刻同期を行う時刻または間隔	03:00:00
最後に時刻校正した日付	2000-00-00
最後に時刻校正した時刻	00:00:00

上図に示される各設定値について設定を行い、同期する時刻をセットしてください。

同期時刻に Vbus の電源が入っており、インターネットに接続でき、指定の NTP サーバーと通信できる場合日付、時計について設定されます。

【注意：】NTP サーバーと同期するにはインターネット上のネットワークに Vbus を接続しておく必要があります。尚、NTP サーバーが存在していないか、NTP サーバーに通じる途中のネットワークが遮断されていた場合、同期できません。他、FireWall によって通信を遮断された場合も同様です。

予め、同じネットワーク内に設置された PC より“ping”コマンド等で NTP サーバーと通信できているか確認してください。

## 5. エラー検出について

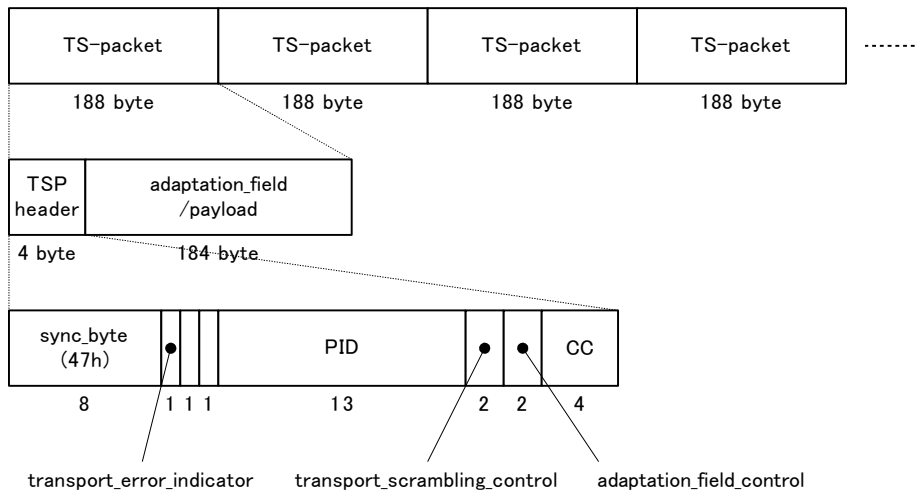


図 5-1 TS パケット構造

### 1. ILLEGAL CODE

#### 規格外コード

下記のいずれかの場合エラーとします。

- 1) 入力 TS 信号に EN50083-9 で定められた 10bit エンコードデータ以外のデータが存在する場合。
- 2) 入力 TS 信号の Running Disparity (RD) にエラーがある場合。

### 2. TS SYNC LOSS

#### TS 同期崩れ

入力 TS 信号の同期が確立されていないときエラーとします。同期確立の条件は下記の通りです。

- 1) 同期バイト(sync\_byte)が 5 パケット以上連続して正常(47h)である場合  
同期が確立したとみなします。
- 2) 同期バイトが 2 パケット以上連続して異常である場合、同期が崩れたとみなします。
- 3) 1 秒以上パケットを受信できない場合、同期が崩れたとみなします。

※TS SYNC LOSS は優先度の高いエラーです。このエラーが発生した場合  
その間は他のエラーを検出しません。

### 3. SYNC BYTE ERROR

#### 同期バイトエラー

同期バイトの値が 47h でないときエラーとします

### 4. FRAME LENGTH ERROR

#### 規定外フレーム長パケットの検出

フレーム長 188byte / 204byte 以外のフレームが検出されたことを示します。

## 5. PAT ERROR

### PAT エラー

下記のいずれかの場合エラーとします。

- 1) PID=0000h において、table\_id=00h のセクション (PAT) が 500ms 以内 (誤差範囲±1ms) に存在しない場合。
- 2) PID=0000h において、table\_id=00h でないセクションが存在する場合。
- 3) PID=0000h において、TS ヘッダーの scrambling\_control\_field='00' でないパケットが存在する場合。

## 6. CONTINUITY COUNT ERROR

### CC(連続性カウンター)エラー

TS ヘッダーの CC(continuity\_counter)が、同じ PID の各々の TS パケットで連続して増加(15の次は0に戻る)しない場合にエラーとします。但し、下記の例外があります。

- 1) TS ヘッダーの adaptation\_field\_control='00' または '10' の場合は増加しない。
- 2) アダプテーションフィールドの discontinuity\_indicator='1' の場合は不連続である。
- 3) NULL パケット (PID=1FFFh) では CC は無効。

エラー検出とエラーの起こったパケットの PID を通知します。

## 7. PMT ERROR

### PMT エラー

下記のいずれかの場合エラーとします。

- 1) PAT から参照されている program\_map\_PID において、table\_id=02h のセクション (PMT) が 500ms 以内 (誤差範囲±1ms) に存在しない場合。
- 2) PAT から参照されている program\_map\_PID において、TS ヘッダーの scrambling\_control\_field='00' でないパケットが存在する場合。

エラー検出とエラーの起こったパケットの PID を通知します。

## 8. PID ERROR

### PID エラー

PMT から参照された PID (PCR\_PID、elementary\_PID) のパケットが、5s 以内 (誤差範囲±1ms) に存在しない場合エラーとします。エラー検出とエラーの起こったパケットの PID を通知します。

## 9. TRANSPORT ERROR

### トランスポートエラー

TS ヘッダーの transport\_error\_indicator='1' のときエラーとします。

エラー検出とエラーの起こったパケットの PID を通知します。



## 10. NULL CONTINUITY

### NULL パケットの連続

NULL パケット(PID=1FFFh)が設定された時間連続した場合にエラーとします。時間は 100~9990msec の範囲で設定できます(10msec 単位で調整可能 誤差範囲±10ns)。

## 11. Reed-Solomon ERROR

### Reed-Solomon エラー

204byte 長の TS パケットで Reed-Solomon を付加してあるパケットのチェックをします。  
エラー検出とエラーの起こったパケットの PID を通知します。

## 6. プレゼンスの検出について

本器ではユーザーが指定したパケットが周期的に来ているのか調べることができます。WebServer 又は前面表示機から設定できます。ユーザーは見たいパケットの PID と周期を設定することができ、チャンネル毎に 8 つのプリセット (PID と周期のセット) を設定することができます。

設定した周期以内に指定した PID のパケットが入力されている場合、パケットを検出しているとみなされ周期を超えてもパケットが入力されなかった場合パケットは未検出と判定されます。

詳細については「4.基本操作」のメニューツリー又は簡易フロントパネル(2)CONTROL の項目を参照ください。

## 7. SNMP

SNMP 対応の Vbus 筐体を使用すると、SNMP による監視が可能です。※

筐体の LAN から SNMP で状態の確認、設定変更トラップ受信などができます。

(接続方法は Vbus 筐体の取説を参照してください。)

DDA-70TS の MIB データは、以下の表に対応します。

オブジェクト識別子は、1.3.6.1.4.1.20120.20.1.249.1.1 項番. index になります。

項番 = OID:2 バイト、index はスロット番号 1~10 です。

MIB データが変化したときはトラップ発生します。(SNMP で更新された項番はトラップが発生しません。)

※ お手持ちの Vbus 筐体が SNMP 対応したものか分からない場合、筐体のシリアルナンバーを確認し、当社までお問い合わせください。

項番	オブジェクト識別子名	アクセス	バイト数	内容	実装例	SYNTAX
1	dda70tsPid	R/O	80	プログラム情報	製品コード DDA-70TS 会社名 VIDEOTRON Corp バージョン 02.00.00 R00 製造日 2017/07/12 WED 時 Build-10:31:16	STRING
3	dda70tsKcode	R/O	4	機種コード=249	249 = 0xf9	INTEGER
40	dda70tsFpgaVersion	R/O	4	LCA のバージョン情報 英数字 2 文字	“00”=0x3030=12336	INTEGER
1000	dda70tsSysInfo	R/O	4	システム情報 bit0:ディップスイッチ SW1 未割当 bit1:ディップスイッチ SW2 未割当 bit2:ディップスイッチ SW3 未割当 bit3:ディップスイッチ SW4 未割当 bit4:ディップスイッチ SW5 未割当 bit5:ディップスイッチ SW6 未割当 bit6:ディップスイッチ SW7 Alarm output 1:出力 0:非出力 bit7:ディップスイッチ SW8 未割当 Initialize Configuration 0:通常動作 1:初期化動作 bit8.. bit10 : CH1 信号検出状態 0: SYNC LOSS 1: TS 信号 2: SDI SD 3: SDI HD 4: SDI 3G bit11.. bit13 : CH2 信号検出状態 0: SYNC LOSS 1: TS 信号 2: SDI SD 3: SDI HD 4: SDI 3G bit15 : LOG 記録状態 0 LOG 記録停止中 1 LOG 記録中 bit16 : 筐体アラーム出力 0 出力なし 1 出力中	ディップスイッチ SW7 ON Alarm output 出力 0x40 hex =64	INTEGER

				bit17 : RTC リセット情報 0 リセット無し 1 リセット発生		
1001	dda70tsDetLastErrSts	R/O	4	ERROR 検出結果 bit0:CH1_TS_SYNC_LOSS bit1:CH1_SYNC_BYTE_ERROR bit2:CH1_ILLEGAL_CODE bit3:CH1_NULL_CONTINUITY bit4:CH1_FRM_LEN_ERR bit5: CH1_CONTINUITY_COUNT_ERR bit6:CH1_TRANSPORT_ERR bit7:CH1_PAT_ERR bit8:CH1_PMT_ERR bit9:CH1_PID_ERR bit10:CH1_REED_SOLOMN_ERR bit11: CH1_VIDEO_DET bit12:CH1_AUDIO_DET bit13:CH1_CAPTION_DET bit14.. bit15 : NONE bit16:CH2_TS_SYNC_LOSS bit17:CH2_SYNC_BYTE_ERROR bit18 : CH2_ILLEGAL_CODE bit19:CH2_NULL_CONTINUITY bit20:CH2_FRM_LEN_ERR bit21 : CH2_CONTINUITY_COUNT_ERR bit22:CH2_TRANSPORT_ERR bit23:CH2_PAT_ERR bit24:CH2_PMT_ERR bit25:CH2_PID_ERR bit26:CH2_REED_SOLOMN_ERR bit27: CH2_VIDEO_DET bit28:CH2_AUDIO_DET bit29:CH2_CAPTION_DET bit30.. bit31 : NONE	CH1 で TS SYNC LOSS が検知されたとき 1	INTEGER
1002	dda70tsDetPastErrSts	R/O	4	1001 dda70tsDetLastErrSts と同じ	1001 dda70tsDetLastErrSts と同じ	INTEGER
1003	dda70tsPktLen	R/O	4	検出された Packet 長さ情報 bit0-bit7:P-Packet Length CH1 bit12:CH1 REED SOLOMON 有 bit16-bit23:P-PacketLength CH2 bit24:CH2 REED SOLOMON 有	CH1 で REED SOLOMON 有 204byte が検知されたとき 4300=0x10cc	INTEGER
1004	dda70tsSetDetErr	R/O	4	ERROR 検出設定 bit0:CH1_TS_SYNC_LOSS bit1:CH1_SYNC_BYTE_ERROR bit2:CH1_ILLEGAL_CODE bit3:CH1_NULL_CONTINUITY bit4:CH1_FRM_LEN_ERR bit5: CH1_CONTINUITY_COUNT_ERR bit6:CH1_TRANSPORT_ERR bit7:CH1_PAT_ERR bit8:CH1_PMT_ERR bit9:CH1_PID_ERR bit10:CH1_REED_SOLOMN_ERR bit11: CH1_VIDEO_DET bit12:CH1_AUDIO_DET	CH1 CH2 全 ERROR 検知 1073692671=0x3fff3fff	INTEGER

				bit13:CH1_CAPTION_DET bit14.. bit15 : NONE bit16:CH2_TS_SYNC_LOSS bit17:CH2_SYNC_BYTE_ERROR bit18 : CH2_ILLEGAL_CODE bit19:CH2_NULL_CONTINUITY bit20:CH2_FRM_LEN_ERR bit21 : CH2_CONTINUITY_COUNT_ERR bit22:CH2_TRANSPORT_ERR bit23:CH2_PAT_ERR bit24:CH2_PMT_ERR bit25:CH2_PID_ERR bit26:CH2_REED_SOLOMN_ERR bit27: CH2_VIDEO_DET bit28:CH2_AUDIO_DET bit29:CH2_CAPTION_DET bit30.. bit31 : NONE		
1005	dda70tsSetDetPeriodNull	R/W	4	Null CONTINUITY 検出期間 bit0-bit15:CH1 bit16-bit31:CH2	CH1 CH2 共に 500msec 32768500=0x01f401f4	INTEGER
1006	dda70tsEnaDetUsr	R/W	4	USER PRESET Packet 検出設定 bit 0 : CH1 USER PRESET 1 bit 1 : CH1 USER PRESET 2 bit 2 : CH1 USER PRESET 3 bit 3 : CH1 USER PRESET 4 bit 4 : CH1 USER PRESET 5 bit 5 : CH1 USER PRESET 6 bit 6 : CH1 USER PRESET 7 bit 7 : CH1 USER PRESET 8 bit 8 .. bit15 : NONE bit16 : CH2 USER PRESET 1 bit17 : CH2 USER PRESET 2 bit18 : CH2 USER PRESET 3 bit19 : CH2 USER PRESET 4 bit20 : CH2 USER PRESET 5 bit21 : CH2 USER PRESET 6 bit22 : CH2 USER PRESET 7 bit23 : CH2 USER PRESET 8 bit24 .. bit31 : NONE	CH2 PRESET 1 のみ検知有効 65536=0x10000	INTEGER
1007	dda70tsSetDetUsrData1	R/W	4	USER PRESET PACKET 検出期間 PID 設定 bit0 .. bit15 : CH1 USER PRESET PID 1 bit16 .. bit31 : CH1 USER PRESET PERIOD 1	期間 5000msec PID 80 327680080=0x13880050	INTEGER
1008	dda70tsSetDetUsrData2	R/W	4	USER PRESET PACKET 検出期間 PID 設定 bit0 .. bit15 : CH1 USER PRESET PID 2 bit16 .. bit31 : CH1 USER PRESET PERIOD 2	期間 5000msec PID 80 327680080=0x13880050	INTEGER
1009	dda70tsSetDetUsrData3	R/O	4	USER PRESET PACKET 検出期間 PID 設定 bit0 .. bit15 : CH1 USER PRESET PID 3 bit16 .. bit31 : CH1 USER PRESET PERIOD 3	期間 5000msec PID 80 327680080=0x13880050	INTEGER

項番	オブジェクト識別子名	アクセス	バイト数	内容	実装例	SYNTAX
1010	dda70tsSetDetUsrData4	R/O	4	USER PRESET PACKET 検出期間 PID 設定 bit0 .. bit15 : CH1 USER PRESET PID 4 bit16 .. bit31 : CH1 USER PRESET PERIOD 4	期間 5000msec PID 80 327680080=0x13880050	INTEGER
1011	dda70tsSetDetUsrData5	R/W	4	USER PRESET PACKET 検出期間 PID 設定 bit0 .. bit15 : CH1 USER PRESET PID 5 bit16 .. bit31 : CH1 USER PRESET PERIOD 5	期間 5000msec PID 80 327680080=0x13880050	INTEGER
1012	dda70tsSetDetUsrData6	R/W	4	USER PRESET PACKET 検出期間 PID 設定 bit0 .. bit15 : CH1 USER PRESET PID 6 bit16 .. bit31 : CH1 USER PRESET PERIOD 6	期間 5000msec PID 80 327680080=0x13880050	INTEGER
1013	dda70tsSetDetUsrData7	R/W	4	USER PRESET PACKET 検出期間 PID 設定 bit0 .. bit15 : CH1 USER PRESET PID 7 bit16 .. bit31 : CH1 USER PRESET PERIOD 7	期間 5000msec PID 80 327680080=0x13880050	INTEGER
1014	dda70tsSetDetUsrData8	R/W	4	USER PRESET PACKET 検出期間 PID 設定 bit0 .. bit15 : CH1 USER PRESET PID 8 bit16 .. bit31 : CH1 USER PRESET PERIOD 8	期間 5000msec PID 80 327680080=0x13880050	INTEGER
1015	dda70tsSetDetUsrData9	R/W	4	USER PRESET PACKET 検出期間 PID 設定 bit0 .. bit15 : CH2 USER PRESET PID 1 bit16 .. bit31 : CH2 USER PRESET PERIOD 1	期間 5000msec PID 80 327680080=0x13880050	INTEGER
1016	dda70tsSetDetUsrData10	R/W	4	USER PRESET PACKET 検出期間 PID 設定 bit0 .. bit15 : CH2 USER PRESET PID 2 bit16 .. bit31 : CH2 USER PRESET PERIOD 2	期間 5000msec PID 80 327680080=0x13880050	INTEGER
1017	dda70tsSetDetUsrData11	R/W	4	USER PRESET PACKET 検出期間 PID 設定 bit0 .. bit15 : CH2 USER PRESET PID 3 bit16 .. bit31 : CH2 USER PRESET PERIOD 3	期間 5000msec PID 80 327680080=0x13880050	INTEGER
1018	dda70tsSetDetUsrData12	R/W	4	USER PRESET PACKET 検出期間 PID 設定 bit0 .. bit15 : CH2 USER PRESET PID 4 bit16 .. bit31 : CH2 USER PRESET PERIOD 4	期間 5000msec PID 80 327680080=0x13880050	INTEGER

項番	オブジェクト識別子名	アクセス	バイト数	内容	実装例	SYNTAX
1019	dda70tsSetDetUsrData13	R/W	4	USER PRESET PACKET 検出期間 PID 設定 bit0 .. bit15 : CH2 USER PRESET PID 5 bit16 .. bit31 : CH2 USER PRESET PERIOD 5	期間 5000msec PID 80 327680080=0x13880050	INTEGER
1020	dda70tsSetDetUsrData14	R/W	4	USER PRESET PACKET 検出期間 PID 設定 bit0 .. bit15 : CH2 USER PRESET PID 6 bit16 .. bit31 : CH2 USER PRESET PERIOD 6	期間 5000msec PID 80 327680080=0x13880050	INTEGER
1021	dda70tsSetDetUsrData15	R/W	4	USER PRESET PACKET 検出期間 PID 設定 bit0 .. bit15 : CH2 USER PRESET PID 7 bit16 .. bit31 : CH2 USER PRESET PERIOD 7	期間 5000msec PID 80 327680080=0x13880050	INTEGER
1022	dda70tsSetDetUsrData16	R/W	4	USER PRESET PACKET 検出期間 PID 設定 bit0 .. bit15 : CH2 USER PRESET PID 8 bit16 .. bit31 : CH2 USER PRESET PERIOD 8	期間 5000msec PID 80 327680080=0x13880050	INTEGER
1023	dda70tsSelViewContents	R/W	4	Log 読み込み内容選択 bit0-bit1: 0 = ALL 1 = CH1 2 = CH2	CH1 のみ LOG 設定 1	INTEGER
1024	dda70tsSetSysConfig	R/W	4	システム設定 bit0 : 入力信号分配設定 0 1 入力 8 分配 1 2 入力 4 分配 bit1 .. bit2 : LED 表示選択 0 Hold 1 3Mitenute 2 Moment bit3 .. bit31 : NONE	入力信号分配設定 2 入力 4 分配 LED 表示選択 3Mitenute 3	INTEGER
1025	dda70tsInitCmd	R/W	4	初期化操作 bit0 : 設定値初期化実行 0 何もしない 1 工場出荷設定に戻る bit1 : ログ領域初期化 0 何もしない 1 ログ領域初期化 bit2 : CH1 ERROR LED 初期化 bit3 : CH2 ERROR LED 初期化 ERROR LED 初期化動作 と ログ初期化、設定値初期化は同時に行えません。 1: ERROR LED 初期化 ( CH1 / CH2 ) 2: 設定値初期化	CH1 のエラーをリセット 4	INTEGER

				3: ログエリア初期化 上記のようにプライオリティがつけられており、それぞれ独立で実行します。 よってプライオリティの高いものだけが実行されますので、同時に実行できないものは無視されます。		
1026	dda70tsUsrProfile	R/O	4	USER PRESET PIDs USER PRESET の検知有効無効の設定 0:無効 1:有効 bit0 : CH1 PRESET 01 bit1 : CH1 PRESET 02 bit2 : CH1 PRESET 03 bit3 : CH1 PRESET 04 bit4 : CH1 PRESET 05 bit5 : CH1 PRESET 06 bit6 : CH1 PRESET 07 bit7 : CH1 PRESET 08 bit8 : CH2 PRESET 1 bit9 : CH2 PRESET 2 bit10 : CH2 PRESET 3 bit11 : CH2 PRESET 4 bit12 : CH2 PRESET 5 bit13 : CH2 PRESET 6 bit14 : CH2 PRESET 7 bit15 : CH2 PRESET 8	CH2 PRESET 1 のみ検知されたとき 256=0x100	INTEGER
1027	dda70tsLatestCCError	R/O	4	CONTINUITY COUNT ERR PID 番号 bit0 .. bit15 :CH1 PID bit16 .. bit31 CH2 PID	CH1 で PID80 が検知されたとき 80=0x50 初期値 -1=0xffffffff	INTEGER
1028	dda70tsLatestTrspError	R/O	4	TRANSPORT ERR PID 番号 bit0 .. bit15 :CH1 PID bit16 .. bit31 CH2 PID	CH1 で PID80 が検知されたとき 80=0x50 初期値 -1=0xffffffff	INTEGER
1029	dda70tsLatestPMTError	R/O	4	PMT ERR PID 番号 bit0 .. bit15 :CH1 PID bit16 .. bit31 CH2 PID	CH1 で PID80 が検知されたとき 80=0x50 初期値 -1=0xffffffff	INTEGER
1030	dda70tsLatestPIDError	R/O	4	PID ERR PID 番号 bit0 .. bit15 :CH1 PID bit16 .. bit31 CH2 PID	CH1 で PID80 が検知されたとき 80=0x50 初期値 -1=0xffffffff	INTEGER
1031	dda70tsLatestRedSoIError	R/O	4	REED SOLOMON ERR PID 番号 bit0 .. bit15 :CH1 PID bit16 .. bit31 CH2 PID	CH1 で PID80 が検知されたとき 80=0x50 初期値 -1=0xffffffff	INTEGER
1032	dda70tsPATVersion	R/W	4	PAT Version 情報 bit0 .. bit15 :CH1 PAT Version bit16 .. bit31 CH2 PAT Version	CH1 で 2 が検知されたとき 2	INTEGER
1033	dda70tsSetDetIntvVid	R/W	4	VIDEO Packet 検出期間 bit0 .. bit15 :CH1 (msec) bit16 .. bit31 CH2 (msec)	CH1 CH2 共に 5000msec 327685000=0x13881388	INTEGER
1034	dda70tsSetDetIntvAud	R/W	4	AUDIO Packet 検出期間 bit0 .. bit15 :CH1 (msec) bit16 .. bit31 CH2 (msec)	CH1 CH2 共に 5000msec 327685000=0x13881388	INTEGER



項番	オブジェクト識別子名	アクセス	バイト数	内容	実装例	SYNTAX
1035	dda70tsSetDetIntvIc ap	R/W	4	CAPTION Packet 検出期間 bit0 .. bit15 :CH1 (msec) bit16 .. bit31 CH2 (msec)	CH1 CH2 共に 5000msec 327685000=0x13881388	INTEGER

## 8. 工場出荷設定（ディップスイッチ）

工場出荷時、DIP SW の設定は下記図のように全て OFF になっています。



**注意！** ディップスイッチの設定は、電源を落とした状態で行ってください。

電源投入時に設定が反映されます。

**注意！** ディップスイッチ 8をONに設定し本製品を起動しますと、本製品の内部設定値をすべて工場出荷時もどすことができます。且つ記録されたログデータはすべて消去されます。

## 9. トラブルシューティング

トラブルが発生した場合の対処法です。(文中の→は対処方法を示しています)  
筐体のトラブルに関しては、筐体の取扱説明書もあわせてご覧ください。

現象 まったく動作しない！

原因

- ・筐体の電源ケーブルは接続されていますか？
  - ・筐体の電源スイッチは ON 側になっていますか
  - ・メインモジュール(基板)は正しく挿入されていますか？
  - ・コネクタモジュールは確実にネジ止めされていますか？
  - ・入力信号を直接出力先に接続して映像は出力されますか？
- モジュールが故障している可能性があります。当社までご連絡ください。

現象 映像が正しく表示されない！

原因

- ・メインモジュール(基板)は正しく挿入されていますか？
  - ・コネクタモジュールは確実にネジ止めされていますか？
  - ・入力信号を直接出力先に接続して映像は正しく出力されますか？
- モジュールが故障している可能性があります。当社までご連絡ください。

現象 Vbus 筐体の TALLY コネクタからアラームが出力される！

原因

- ・DIP SW のスイッチ番号 7 が ON になっていませんか？
- 「3.各部の名称と働き」の DIP SW の項を参照し、確認してください。
- ・INPUT1、または INPUT2 の前面表示機のランプが橙色に点灯していますか？
- エラーが発生しています。「5.エラー検出について」を参照し、確認してください。
- ・筐体正面にある、FAN、電源のアラームランプは点滅していませんか？
- 筐体の FAN、電源が故障している可能性があります。当社までご連絡ください。
- ・モジュールを引き抜いてもアラームが出力されますか？
- モジュールが故障している可能性があります。当社までご連絡ください。

現象 信号を入力しているのに INPUT ステータスが点灯しない！

原因

- ・信号は正しく分配されていますか？
- 信号が正常に分配されている場合、本機対象外の信号の可能性があります。  
「3.各部の名称と働き」の入力信号ランプの項を参照し、入力フォーマットを確認してください。
- 信号が正常に分配されていない場合、モジュールが故障している可能性があります。  
当社までご連絡ください。

ご不明な点は、当社までご連絡ください。

## 10. 仕様

### 1. 機能

分配モード設定	前面表示機又は WebServer で 2 種類の分配モードを選択します。2 系統の信号を各 4 分配する設定と、1 系統の信号を 8 分配する設定があります。
入力信号が本機に対応しているか表示	ASI IN 端子に本機対応信号が入力されると緑点灯し、SYNC_LOSSした場合、橙色が点滅します。ASI IN で SYNC LOSS せずエラーが発生してる場合、緑色と橙色が交互に点滅します。
各種エラー表示	前面表示機、WebServer、SNMP、接点出力(筐体より出力)。
ALARM出力	エラー発生時、筐体の接点 ALARM 出力端子によりアラーム信号を出力。機能は基板上のスイッチで有効/無効の設定ができます。
WebServer監視、設定	SNMP を用いて監視、設定ができます。
LOG機能	イベント発生日時、発生エラー種別、入力データフォーマット等を LOG として保存、WebServer あるいは、FTP 経由で読みだすことができます。
監視項目	TS_SYNC_LOSS SYNC_BYTE_ERR NULL_CONTINUITY ILLEGAL_CODE FRM_LEN_ERR TRANSPORT_ERR(PID 毎) CONTINUITY_count_ERR(PID 毎) PAT_ERROR PMT_ERROR(PID 毎) PID_ERROR(PID 毎) Reed-Solomon_ERR(PID 毎) ユーザー定義のパケットの検出 フレーム長の検出(188/204byte) PATバージョン VIDEO 検出 AUDIO 検出 CAPTION 検出

### 2. 定格

入力信号		
・ ASI IN	EN50083-9(DVB-ASI)	0.8V <sub>p-p</sub> /75Ω、BNC 2 系統
出力信号		
・ ASI OUT 1~4	EN50083-9(DVB-ASI)	0.8V <sub>p-p</sub> ±10%/75Ω、BNC 各 2 系統
トランスポート・プロトコル	MPEG-2 トランスポートストリーム、ISO/IEC 13818-1 ARIB TR-B14 準拠 1 ストリーム 27 番組対応 1 番組 16PES 対応	
パケット長	188/204byte	
伝送フォーマット	パケットモード/バーストモード	
ビットレート(ASI)	最大 214Mbps	
動作温度	0~40℃	
動作湿度	20~80%RH(ただし結露なき事)	
消費電力	4VA (5V,0.8 A)	
質量	約340g	
モジュール最小遅延時間	約40ns以下	

### 3. 性能

#### 入力特性

##### ・ASI IN

イコライザー特性	3G: 120M(5CFB) HD: 180M(5CFB) SD、MPEG2 TS: 300M(5C2V)
反射減衰量	3G: 5MHz~1.485GHz, 15dB 以上 / 1.485GHz~2.97GHz, 10dB 以上 HD: 5MHz~1.485GHz, 15dB 以上 SD: 5MHz~270MHz, 15dB 以上 MPEG2 TS: 270MHz 以下, 15dB 以上

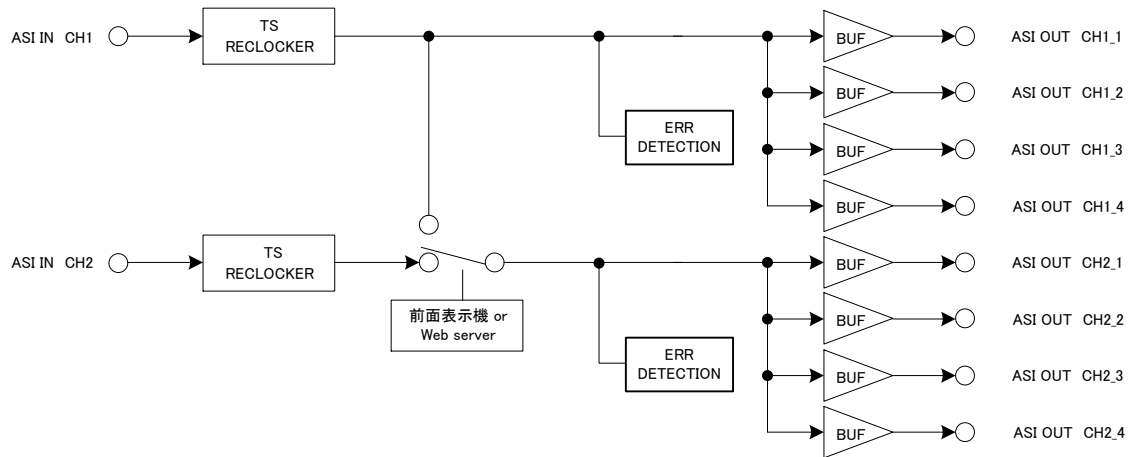
#### 出力特性

##### ・ASI OUT

信号振幅	0.8V <sub>p-p</sub> ± 10% / 75 Ω
反射減衰量	3G: 5MHz~1.485GHz, 15dB 以上 / 1.485GHz~2.97GHz, 10dB 以上 HD: 5MHz~1.485GHz, 15dB 以上 SD、MPEG2 TS: 5MHz~270MHz, 15dB 以上
立ち上がり/立ち下がり時間	3G: 135ps 以下(20%~80%間) HD: 270ps 以下(20%~80%間) SD、MPEG2 TS: 0.4ns~1.5ns(20%~80%間)
オーバーシュート	10%以下
DCオフセット	0V ± 0.5V 以内
ジッター特性	
アライメント	3G: 0.3UI、HD: 0.2UI、SD、MPEG2 TS: 0.2UI、
タイミング	3G: 2.0UI、HD: 1.0UI、SD、MPEG2 TS: 0.2UI

※注. 外観及び仕様は変更することがあります。

## 11. ブロック図



### 本書に記載している商標

Microsoft®、Windows®、および Windows 7®、Windows 8、®Windows 8.1®、Windows 10®、Windows Server 2008®、Windows Server 2012®は、Microsoft Corporation の米国および他の国における登録商標です。  
その他本書中に記載されている会社名・製品名は、各社の商標または登録商標です。

## 無断転写禁止



- 本書の著作権はビデオトロン株式会社に帰属します。
- 本書に含まれる文書および図版の流用を禁止します。

## お問い合わせ

製品に関するお問い合わせは、下記サポートダイヤルにて承ります。

本社営業部/サポートセンター TEL **042-666-6311**

大阪営業所 TEL **06-6195-8741**

-----  
**ビデオトロン株式会社** E-Mail: sales@videotron.co.jp

本 社 〒193-0835 東京都八王子市千人町 2-17-16

大阪営業所 〒532-0011 大阪府大阪市淀川区西中島6-8-8 花原第8ビル 5F

ビデオトロンWEBサイト

<https://www.videotron.co.jp>

101820R13

本書の内容については、予告なしに変更する事がありますので予めご了承下さい。